

East
Asian
Library
GV
1142
M66
2001
v.12

第十篇 南加聯盟會史

第一章 南加州の沿革史

南加州と氣候

南加州とは、加州五十八郡の内、南部九郡を限つて便宜上、southern california 即ち南加州と特別の名稱を附したものである。南加州の北はサンルイス、オビスポ郡に限られ、東はアリゾナ、ネバタ兩州に界し、南は隣國メキシコに接し、西は緩かな灣形を爲して太平洋に臨み、ロスアンゼルス、オレンヂ、リヴァサイド、サンバナデノ、サンデーゴ、インペリアル、ヴェンチュラ、サンタババラ、サンルイス、オビスポ九郡の總面積は四萬八千五百五十平方哩に及び、一九三〇年度の人口調査に依れば、三百十四萬三千七百七十二人と注せられて居る。

而して此地の特色とする點は、氣候が全く他地方と異り、四季の區劃明裁でなく、春が何時去り秋の何時來たかも判らず、纏て十月頃になると、初雨霽れたるあと、小山の丘に綠色を染めなして、朝に夕に何時しか春草が萌え出でると言ふ調子で、恰も常春の氣候である。之れに加ふるに土地の豐穰、風光の明媚、空氣の乾燥とで、居住地として、又は工業地として最も理想的なる事を認められ、逐年破竹の勢を以て産業が發達し、文化的事業も之れに伍して急激な發展を遂げて今日に至つて居る。南加州の惠まれたる自然を讚美せるロスコー、ワイヤットの『南加州讚歌』を見れば、短句の中によく其の内容が溢れ出て居る。

本復刻版を原著「北米剣道大鑑」関係者、とりわけ原著者初井一劍の献身的な勞に捧ぐ

This reprint edition is dedicated to the many people and Ikken Momii in particular, whose supreme sacrifices have made possible the publication of this original, *Hokubei Kendo Taikan*.



Bunsei Shoin Booksellers, Co., Ltd.

6-16-3, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033, Japan

Tel.: +81-3-3811-1683 Fax: +81-3-3811-0296 e-mail: inquiry@bunsei.co.jp

Originally published by Hokubei Butokukai, San Francisco, 1939

Written by Ikken Momii

Reprint edition digitized and published by Bunsei Shoin Co., 2001

Edited and annotated by Eizaburo Okuizumi

白人種の探見

太平洋の白波砕くる南加州の海岸も、風光明媚な山野も、約一世紀半前までは、アメリカインディアンの銅色の足跡だけしか印して居なかつたのである。今より約四百年前、白哲人種が、南端のサンデーゴに足跡を印した事はあるが、此地に殖民が行はれたのは今より約一世紀半前の事である。それは南方より海路を経てサンデーゴに上陸した、宗教の法悦と領土征服の希望に燃ゆる勇敢なスペイン人の一群であつた。彼等は非常なる艱難辛苦と戦ひ多大の犠牲を拂つて北漸を續け、一日の行程に寺院と村落とを建設しつゝ、サンフランシスコまで進んだ。此の歴史は極めて新しいけれ共、實に開拓者の血と肉と汗を以て彩られた歴史である。

南部加州の飛躍

一八四二年北加州サバビルに於ける金礦發見後の北加州は、前章加州開發史の中に詳説した如く、實に急速度の發達を遂げて今日あるが、サクラメントとサンフランシスコを中心とする急激な膨脹力は、次第に南方に向つて發展し來りロスアンゼルスを中心とせる南部加州を何時とはなしに形成するに至つた折柄、一九〇六年突如サンフランシスコに大地震があり、此の爲め南部加州は北部の發展勢力を俄かに奪ふに至り、爾來三十二年間桑港、羅府は南北に相對立して競争的にその發展を争ふたが、天然なる氣候の恩澤と、果實野菜類を大量生産し得る大平原の背景と、サンピドロ港を根據とする海産業の進展と、沿岸地帯に於ける油の噴出等々の恩恵に依つて、今より約二十年前、北加の大都會港を凌駕するの發展を示し、遂に今日人口も加州第一となり、米國大都會中第五位に達するの飛躍振りである。

日支人消長の跡

加州の開發史を説くに當つて、特に記載して置きたい事は、在留支那人と我々同胞の比較消長である。支那人は早くより渡航し、一八六〇年には既に三萬四千九百三十三人を算し、一八七〇年には四萬九千三百十人となり、更に十年後の一八八〇年には、實に七萬八千二百十八人と言ふ激増を示すに至つた。これが爲め白人種間に翕然支那人排斥が起り、暴力沙汰も隨時隨所に演ぜられ一八九〇年には合衆國議會の問題となり、遂に支那人入米制限法なる新法律が制定されるに至つた。此の結果一九〇〇年には四萬五千七百五十三人に減少し、更に年々歳々其の數を減少して行つたが、在留支那人の漸減と共に、之れに入り代つて勞働舞臺にデビューしたのが日本人である。殊に一九〇〇年以後の日本人の入米は著しき増加を示し、新しく日本より渡米する者の外、布哇よりの轉航者があつて、全く支那人と位置を顛倒し今日の盛況を産み出すに至つて居る。

南加の大小都市

一九三〇年度の調査になる南加州の大小都市は、全く昔日の片影にだに止めぬ増加を示し、先づ大羅府市を始め、人口の順位に列擧するとロングビーチ、サンデーゴ、パサデナ、グレンデル、サンピドロ、サンタババラ、サンバナデノ、サンタモニカ、アルハンブラ、ハンチングトンパーク、ボモナ、北ハリウッド、サンタアナ、アナハイム、フラートン、南パサデナ、ホイッテヤ、ベニス、ベバリヒール、ウイルミングトン、レツドランド、プロレー、ベンチユラ、オンタリオ、コルトン、エルセントロ、サンタポーラ、オクスナード、カレキシコ、コロナ、サンルイスオビスポ等々皆な人口一萬以上の都會であつて、其の將來も益々發展すべく約束づけられて居る。

第二章 南加同胞史

南加同胞の發展

南加州の土地の豐饒な事は世界無比、就中羅 府を中心とした太平洋沿岸の地は常春の樂園である。されば此地は世界の農業王國であり、その代表的農産物には次のやうなものがある。オレンヂ、レモン、グレップ、西瓜、カンタロープ、ハネデユウ、メロン、苺、蔬菜類ではレタス、セロリ、カリフラワ、トメトの各種野菜類が生産され、フルーツ、葡萄、年産總額約一億八千萬弗の驚くべき數字に達してゐる。

南加州方面に始めて日本人の移住したのは一八八五年、今から半世紀少し以前である。羅 府に上陸して、勞働者相手の小さな洋食店を開いた者があつたが、詳細は傳つてゐない。一八九〇年（明治二十三年）醫者和田劍之助が羅 府に來た時は人口僅かに五萬、在住同胞六十數名、一八九七年頃には約五百となり、その大部分は鐵道關係の勞働に従事し、獨立經營の商賣に携つてゐる者は甚だ尠かつた。

同胞最初の農業

一九〇〇年、三原茂數、富川豊人等がトロピコで同胞最初の葎園をリースした時には、羅 府の人口は十萬二千四百、同胞の數は約二千名に達した。邦人が農業方面に従事する以前、農産物の栽培耕作は主として支那人、伊太利人及びボルトガル人等の手によつてなされてゐた。勿論最初は同邦農人は彼等に迫害もされ、不馴の土壤に並々ならぬ苦心もした。

然し先天的に農業に適した素質と、固有の勤勉と忍耐は異國人にも勝ち土地をも征服した。そして次第に目覺しい發展を示すに至つた。斯くして一九〇五年には、野菜栽培に従事する日本人の數は五十組に達し、その耕作面積は全部で、千九百八十英加を算するに至つた。併し南加方面に日本人の移住するものが急激に増加したのは、一九〇六年の桑 港の大震災の後であつた。桑 港に於ける罹災邦人が續々と南部加州へ移住したのである。殊に羅 府へ足を停めるものが夥しく、その翌年には同邦人口一躍七千になつた。

同胞發展の端緒

當時邦人の急速な増加と發展に連れて、日本人經營の各種の商賣も次第に創業の數を増し且盛んとなつた。銀行三、新聞雜誌五、旅館六四、下宿三二、飲食店六二、洋食店三一、會社四、その他縣人會一三、學校六、教會七……南加各郡を加算すると總數二萬に達する邦人數であつた。一九〇八年に於ける日米金門兩銀行の閉鎖は、同胞經濟界に深刻な打撃を與へた折も折、後數年ならずして、加州排日土地法の制定を見、同胞活躍の前途に一大難關となつた。

然し一九一四年夏、突如勃發した歐洲大戰は、米國をして世界に於ける經濟の覇者たらしめ、戰爭景氣を招來すると共に同胞關係の諸事業も、全く豫期せざる好景氣に恵まるゝに至つた。而も米國參戰の結果勞働者不足を告げ、邦人勞働者の上に好況の慈雨が降りそゞいで來たのである。休戰後も南加各地の石油事業の開發勃興と、ハリウッド映畫界の隆昌は、一九二〇年、羅 府をして人口、五七六、〇〇〇の大都市たらしめ、南加在住同胞三萬と稱せらるゝに至つた。今日に於ては南加九郡の邦人總數は僅に六萬を超え右の内、所謂第二世は約半分に達してゐる。

一番乗りの同胞

南加に一番乗りをやつた邦人の事は前に一寸觸れたが、新潟縣人金子眞成は明治二十四年に、羅府に少時滞在後サンバナデノ郡に土地を購入し、翌二十五年に歸化願を出して、正式に米國市民權を獲得した。邦人最初の歸化人である。

その他元祖と稱されるものを擧げると、

竹細工店(共營)	山 下 信 太 郎(群馬)	羅 府	明治二十四年
美術店	島 田 九 一 郎(大阪)	〃	〃 二十五年
植木業	遠 藤 增 太 郎(埼玉)	〃	〃 二十四年
野菜耕作	寺 門 助 次 郎(岡山)	〃	〃 三十五年
〃	加 藤 楠 太 郎(和歌山)	〃	〃 三十六年
漁業(鮑採取)	巽 幸 兵 衛(和歌山)	サンビドロ港外	〃 三十六年

羅府の人口が異例な高率を示して、増加する度に在羅同胞の人口も、それに正比例して發展し、一九一四年頃には、既に遙かに桑港を凌駕し、沿岸第一と稱せらるゝに至つた。蓋し斯くの如き華々しい發展は、全米を通じて同胞移民史上曾て他に比を見ざるところである。左に羅府領事館の人口調査に依つて、一九〇六年後の羅府同胞の人口増加を表示して見よう。

一九〇六年	四、六一三
一九二〇年	九、六六八
一九三〇年	一九、四七二

一九三〇年以後に於ける在羅同胞の人口の増減は大して變動無きものと見られてゐる。

諸團體の創立

羅府領事館の設置は一九〇五年頃より、南加在住邦人間に必要と認められ、屢々問題にもなり熱誠なる請願運動も行はれたが、容易に實現の運びに至らず、一九一五年に創設さるゝまで、桑港領事館の管轄に屬してゐた。

羅府日本人會

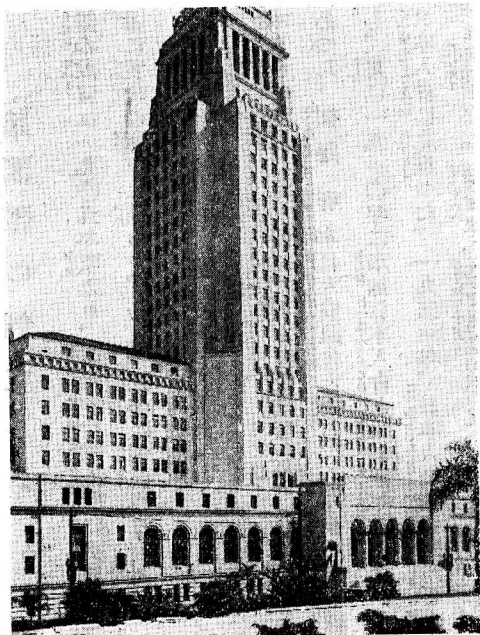
羅府に日本人會の創設されたのは、可なり既往で一九〇五年頃である。當時は在留邦人の數も尠く、従つて會員も寥々たるものであつた。初羅府日本人協議會と稱し、その後三年程経て桑港の在米日本人會と連絡した時、羅府日本人會と改稱し、更に一九一〇年に南加日本人會と改め數年を経たが、一九一六年、南加中央日本人會が創立されたので亦舊の羅府日本人會に立戻つた。一九三一年、日本人商業會議所と合併するに及んで、米人側だけにチャンバー・オブ・コンマースと呼稱した。同會は一時會員數四、五〇〇餘を超えた事もあつたが、新移民法制定の影響を蒙り現在は一、〇〇〇名位である。

羅府日本人會の仕事としては先づ第一に、日米親善を計るための國民外交の工作をなすこと、次に日本及び東洋の事情研究資料提供等に盡力してゐる。更に商業會議所と合併後は、普通の日本人會事務の外、日米間の通商貿易に關する仕事は著しく増加した。その他縣人會、青年會、婦人團體、日系市民協會等は夫々堅實な地歩を占めて協力一致及び、相互の扶助親善の實を擧げてゐる。

第三章 ロスアンゼルス小史

羅府の急速な發達

ロス・アンゼルス市は凡ゆる點で南加州の首であり、心臓にして、郡の面積四一五平方哩に對して、市の夫れは約十分の一の四百平方哩であるが、人口に於ては、郡人口約三百萬の半分に近いものを奪つて百三十萬を誇る、アメリカに於て然たる大都に變化し飛躍した、一種のダイナミックな物語である。今日に於ては羅府は、世界中で一番興味ある都會だ



巖と聳ゆるアスロゼン市スル

然と聳ゆるアスロゼン市スル。ける第五の大都市である。一世紀半前はカクタスや、セーヂ・ブラツシユの生ひ茂つた半熱帶の荒蕪地に過ぎなかつたが一八五〇年、僅か十二平方哩の小區劃を以て生誕し、八十餘年後の今日、ロッキーマン山以西第一の都市に成長しやうとは、誰も夢想しなかつたであらうし、亦、此の急速な膨脹伸展は恐らく世界都市發展史上その比を見ない驚異であらう。羅府の都市建設は、世界の國々から蝟集した人々の、夢想と計畫と情熱と努力に依つて、荒蕪の地が忽ち燦

(8)

と、普く人々によつて喧傳されてゐる。郡三百萬の住民は羅府を中心として、此の地が最も住み心持良く、且生活を嫺しむのに最も快適な地であるとなし、永住の家を持つた。一方に於ては多くの商人、製造家その他に敏い人々が、此地こそ一番金の儲かる所だと考へて、地を興へ、その上補助金を給與したり、農耕に必要な馬匹農具その他一切生活必需品に至るまで無償で與へたり、原價で供給したりしたが、その發展は遅々たるもので、一八五〇年、加州がメキシコから離れて合衆國の統治下に包轄された時



大羅府の商業區域

雪崩れこんだものである。

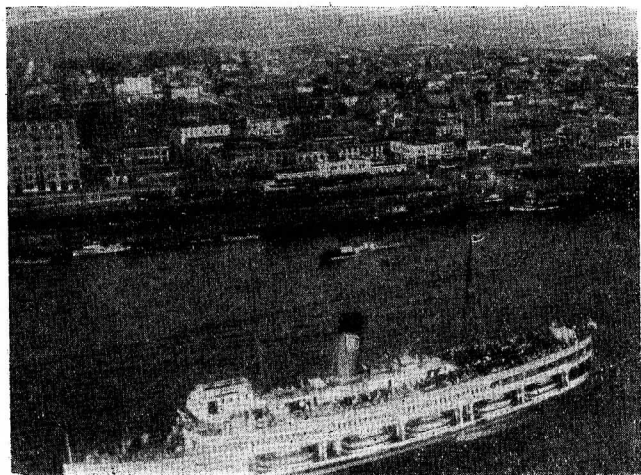
最初は十一戸移住

四百年前コロンブスが新大陸を發見してから五十年後、ポルトガル人のガブリエルが、メキシコから北アメリカの西岸に探險の歩を進めた時、彼は美しい弦月形の水原を發見したが、それが今日のサンピドロ灣であつた。一七六九年加州知事ポーターは西班牙政府の命に依り、セラ神父以下三百餘名を率ゐて、サンデゴからモンテレーへ向ふ途中この地を通過し、夫れより十年後加州知事、フィリップ・デ・ネウザが現在のブラザ公園から少し離れた地點に、部落アエプロを建設したのが、現今のロス・アンゼルスのご創始であつた。ネウはメキシコ政府へ申請して、十一戸の家族を移住させ、移住者には皆一族に對して、宅地と農耕地を興へ、その上補助金を給與したり、農耕に必要な馬匹農具その他一切生活必需品に至るまで無償で與へたり、原價で供給したりしたが、その發展は遅々たるもので、一八五〇年、加州がメキシコから離れて合衆國の統治下に包轄された時

(9)

も尙人口は千六百人餘の寥々たるものであつた。

パンニングの出現



大羅羅府の埠頭

*終點を置いて、ウキルミントンに結ぶ鐵道の投資を勧めた。その結果鐵道は乗合馬車を壓迫したが、各地との通商を刺戟した。二三年後には、サン・オーキン平原を走つて南へ、サウザン・パシフィック線の敷設を見たが、之れは亦ロス・アンゼルスよりユマへ、ユマより東部線に連結するデキサスの地點にまで延長され、後年サンピドロ港へも結ばるゝに至つた。當時ロス・アンゼルスの人口は一萬程で、ポートランドの一萬七千、桑港の二十三萬に較べると、遙かに劣勢な一地方小都市にすぎなかつた。然し、氣候溫和、地味豊沃而も廣大な農耕地と無限の物資を有する事として、次第に移住者を増し、面積の擴大と共に諸種の製産工業が異常な發展を遂げ、一九〇〇年には一躍十萬二千餘の人口となつた。

一八七〇年代の初期、帝國建設の夢を抱いて上院議員となつたパンニングは、ロス・アンゼルス市及び郡に呼びかけて、アリソの南アラメダ街に北部*

羅府の建設

同年より一九二〇年に至る十ヶ年間は羅府市の發展過程の基礎的第一期であつた。この間ハリウッド、東ハリウッド、コールグロブ、サンピドロ及びウイルミントン等の隣接地は相前後して併合され、面積七千二平方哩、人口三十二萬となつた。十ヶ年に二十萬餘の増加で*



サンピドロの漁船

*ある。サンピドロ港並にウキルミントンの併合は、羅府として産業地たると同時に貿易地たらしめ、北方の桑港、南方の羅府として太平洋岸に於ける世界的都市として漸く注意を惹くに至つた。

一九一九年には市の水源地オーエンスマウスとサンフワナンド平原を併合し、更に後年ベニス、サンタモニカ、ワッツ等も加はつて面積は一躍五六倍加され、四百十五平方哩と云ふ世界最大の地域に到達した。合衆國の人口調査に依れば一九〇〇年から一九二〇年の二十ヶ年間に桑港の人口増加率三〇％に對しロス・アンゼルスは三五％、其後の十ヶ年間即ち一九三〇年までは、桑港の二五％に對し、ロス・アンゼルスの夫れは四九％と云ふ驚くべき高率を示してゐる。この事實を見ても、羅府が如何に急速に膨脹したかを窺ひ知る事が出来る。米國太平洋沿岸の三

州ワシントン、オレゴン、カリフォルニアの總人口の約三七％は、羅府を中心とする南部加州に居住してゐる。この一事は羅府が如何に重要な都市的位置に在るかの端的な説明とならう。

圓熟期の 大羅府

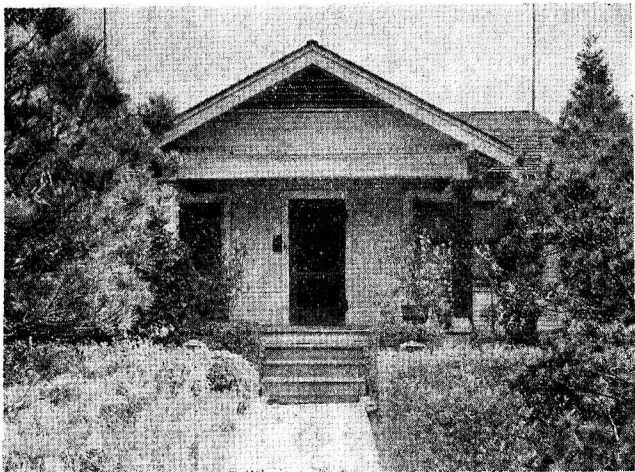
羅府市の附近には自動車 電車にて二、三十分で到達し得る市町村が散在してゐるが、夫等の住民の多くは羅府市に於て業を営み生計を立て、ゐる者で、換言すれば籍を他に置くも、羅府市の住民とも稱す可く、ざつと三四十萬は有らうと云ふ事だ。實際に於ては羅府市の總人口は、百五十萬に上るとの説はこの觀點からすれば妥當であらう。

この、羅府市に於ける、駭々乎として一瞬の休止もない超自然的な、膨脹發展の姿は恰も潑刺たる青年の肉體に似てゐて、之れより第三期の壯年の圓熟期に入らうとしてゐるのだ。大都市にも拘らず、どことなしにその發展の有様は、粗大で秩序の動かつたのは、全力を只管に伸びよう、擴がらう、大きくならうとする點に傾倒したためで、最近の十餘年間は、統制ある計畫下に市區改正、道路改修、橋梁架設、建築物の建て換へ等々、都市の形式美創造に力を致し、實に整然たる發展を完成した。殊に諸官衙を一區域内に集めたシヴィック・センターの建設は、市の面目を更に、一段と引上げたかの觀がある。

第四章 南加聯盟會略史

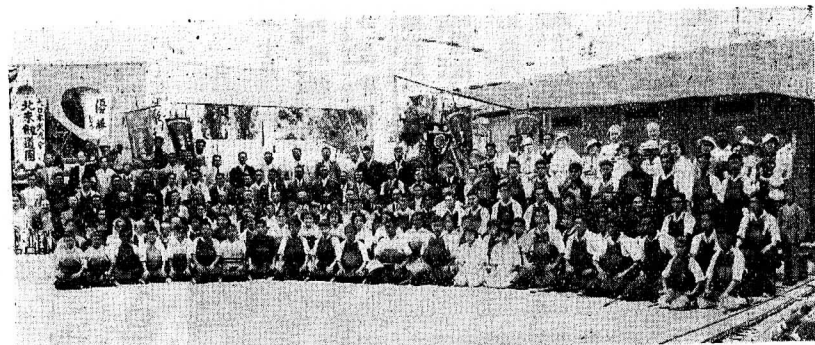
其の創立の動機

一九二九年十月、朝鮮武徳館々々長中村藤吉が、中原四段、秋田三段の兩劍士を隨伴して來羅し、同市本願寺ホールに於て初めて、大日本*



(ロドビンサ) 部本盟聯加南會徳武米北

*帝國劍道形に則つた、實演講習を開始して以來と言ふもの、南加全帯に亘り、澎湃として劍道熱が勃興した。先づサンビドロ劍道部の師範藤井登六と其の鐵楯とも言ふべき從兄弟の藤井太四郎が幾多の難礁を突破して先づ中村一行を招致し、華々しく之れが演武と講習を開始したのが火蓋となり、續いて隣市ロングビーチ、ドミングスヒール、ノーオーク各地方へ飛火して、各自その土地々々に劍道々々の設立を見るに至り、體育の獎勵、精神の啓發向上に、拍車をかけて邁進することになった。南加州各地の巡講を一通り終了した中村一行は、更に沿岸ガタループ經由にて北加地方に足歩を進め、其の足跡の到る處劍道々々場を新設し、五年後の一九三四年の春には、北加沿岸地方より、サクラメント一帯を席捲して中加に進み、約四十個



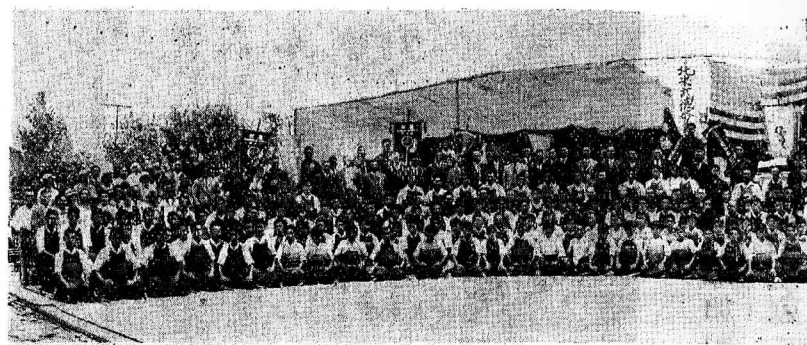
米北年七三九一の於にロドピンサ

の剣道支部を設立するに至つた處から、南北の同志相連結するの必要に逼られ、一九三四年の七月南加四支部の幹部父兄協議の上、茲に北米武徳會南加聯盟の設立を見るに至り。聯盟本部をサンビドロ港ターミナル、ウエー二三〇番に設置した。この間に當つて、初代の聯盟會長となり、今日猶その重任にあつて貢献する處深き橋本數市、顧問戸間鶴松、原乙滋、ロングビーチ支部の江口道徳、大迫愛吉、二村好次、川崎三之助、ドミングスヒールの桑原音吉、桑原音吉兄弟、ノークの森田兵助、板谷純造等の設立に關する盡力は實に多大なものがあつた。

斯くて南加聯盟は創立以來、一九三四年の桑港に於ける日米新聞社主催になる全米剣道大會に出場して優勝し、在日本の講談俱樂部社長野間清治寄贈の優勝旗及び、日米新聞社寄贈の優勝旗をも獲得し、其の翌三五年北加サクラメント市に於ける同大會並に三六年中加フレソノ市に於ける大會、翌三七年南加サンビドロに於ける全米大會に於て、四度び優勝の好成绩を擧げると同時に、劍士の德育的成績も異狀な進化を示し、支部開設以來十ヶ年間に、地方在留二世の精神的向上は全く隔世の觀あらしめ、前記四支部中より初段、二段、三段、四段の高段者を多數輩出する盛況を齎して今日にある。

一九三四年創立當時の聯盟幹部の顔觸れは、

會長橋本數市、副會長ドミングスヒル桑原音吉、ロングビーチ大迫愛吉、ノーク



影撮念記者係關及士劍會大徳武

一ク森田兵助、專任幹事平賀重昌、顧問戸間鶴松、原乙滋、專任師範藤井登六

一九三五年度 會長橋本數市、副會長ドミングスヒル桑原音吉、ロングビーチ川崎三之助、ノーク森田兵助、幹事平賀重昌、顧問戸間鶴松、師範藤井登六

一九三六年度 會長橋本數市、副會長ドミングスヒル桑原音吉、同ロングビーチ二村好次、同ノーク板谷純造、同サンビドロ泉九一、幹事平賀重昌、顧問戸間鶴松、師範藤井登六

一九三七年度 同上

一九三八年度 南加聯盟役員

會長	橋本數市
副會長	河内幸治郎
會計	宮川誠
幹事	二村好次
監査	江口道徳
	畑下帝徳
	平賀重昌
	着能龜吉



理事

顧問

- 吉田 一二
- 濱口 三郎
- 泉 九
- 漁野 太兵衛
- 棚町 虎造
- 桑原 圓吉
- 飯沼 藤平
- 戸間 鶴松
- 奥山 與一郎
- 桑原 音吉
- 川崎 三之助

【寫眞説明】

一九二六年羅府日米社主催になる劍道大會の記念撮影
右より故大村、木島、當日の優勝者加藤、羅村日米記
者たりし編者、故松枝保二三段

南加聯盟有段者會

南加四支部の幹部及び父兄一同の、熱心なる盡力に依つて、一九三四年七月、前記南加聯盟が設立された翌三十五年十

一月、多數有段者の輩出を見たので、茲に各自品性の陶冶向上と、技術の練磨を目的として、南加聯盟有段者會の設立を見るに至り、爾來足懸け四ヶ年間、倦まず撓まずその本来の目的に向つて努力精進しつゝある。

一九三五年度の幹部及び主要事項を摘記すれば、初代會長藤井章奇知、副會長中西繁、會計兼幹事山本博を挙げ、一、寒稽古開始、一、新年宴會、一、チウラベスタへ劍道遠征せるを機會にサンデーゴ博覽會並にメキシコ見學を爲す。同年北加サクラメントに於て開催されたる全米劍道大會に出場、優勝旗獲得。

一九三六年度會長藤井章奇知、副會長中地茂、會計兼幹事泉敏郎に改選し、主要事項としては前會計兼幹事たりし山本博の日本遊學につき送別會開催、一、有段者會發會式並に父兄招待茶話會、一、ロングビーチにて有段者稽古開始、一サンビドロにて有段者稽古開始、同年六月中加フノレス市に於て開催されたる全米劍道大會に出場、優勝旗獲得等々。

一九三七年度は會長泉敏郎新に選舉され、會計兼幹事には江戸太郎就任。同年七月、サンビドロに於て全米劍道大會を開催せるに當り、劍士皆なよく激戦し、又も優勝旗を獲得、同年特筆すべき事項は、日本より歐米のフエンシング研究に渡米せる森寅雄劍士を招聘して、専ら技倆の練磨と、精神陶冶に全力を挙げたことである。

一九三八年度には會長中西茂當選し、副會長泉敏郎、會計清水元一郎、幹事橋本山雄、監査桑原正和、二村輝雄當選し、更らに藤井登六、柳澤友太郎顧問に擧げ猶引き續いて森劍士の教授を受けた。

猶南加聯盟に屬する有段者の數は約四十餘名に達するも中途退會又は歸國せるものあつて、今在籍の有段者並に未だ密接なる連絡を取りつゝある有段者の人名は左の如きものである。

- 師範 鍊士 五段 藤井登六
- 四段 柳澤友太郎、山本喬(在日本)

三段 藤井章奇知、中西茂、林文吉、山本博(在日本)、泉敏郎
 二段 藤井太四郎(在日本)、池田文淵、井田長夫、中地茂、淺利時男、橋本辰一、寺田良治、桑原正和、二村春子、桑原好子、清水元一郎、棚町春子、着野紀代子、尾形清子
 初段 竹内誠、上田英男、江戸太郎、原巖、菅野武夫、東晴雄、淺和正子、二村輝男、川崎保、桑原義行、石田潔、前田隼、漁野恭一、三尾讓治、吉田真之、棚町繁、古賀博之

全米大會の成績表

桑港に於ける北米武徳會全米劍道大會(一九三三年度)

南加聯盟選手名		(青年部)		(少年部)		(幼年部)	
主將	副將	主將	副將	主將	副將	主將	副將
林文吉	中西茂	寺田良	原巖	三尾讓	漁野恭	入江孝	戸間誠
中地茂	淺利時	桑原正	橋本辰	二村輝	菅野武	石田潔	山本博
山本博	竹内誠	江戶太郎	清元一郎	東晴雄	菅野武	菅野武	菅野武
井田長	井田長	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武
橋本辰	橋本辰	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武
泉敏郎	泉敏郎	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武

サクラメントに於ける北米武徳會全米劍道大會南加聯盟選手(一九三三年度)

南加聯盟選手		(青年部)		(少年部)		(幼年部)	
主將	副將	主將	副將	主將	副將	主將	副將
林文吉	中西茂	寺田良	原巖	三尾讓	漁野恭	入江孝	戸間誠
中地茂	淺利時	桑原正	橋本辰	二村輝	菅野武	石田潔	山本博
山本博	竹内誠	江戶太郎	清元一郎	東晴雄	菅野武	菅野武	菅野武
井田長	井田長	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武
橋本辰	橋本辰	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武
泉敏郎	泉敏郎	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武

フレズノに於ける北米武徳會全米劍道大會南加聯盟選手(一九三五年度)

南加聯盟選手		(青年部)		(少年部)		(幼年部)	
主將	副將	主將	副將	主將	副將	主將	副將
山本博	中地茂	寺田良	原巖	三尾讓	漁野恭	入江孝	戸間誠
橋本辰	淺利時	桑原正	橋本辰	二村輝	菅野武	石田潔	山本博
井田長	井田長	巖野武	巖野武	東晴雄	菅野武	菅野武	菅野武
利時辰	利時辰	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武
井田長	井田長	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武
田長雄	田長雄	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武	巖野武



我が海國男子よつて大躍進を呈す

一八八八年に、ロスアンゼルス商業會議所が組織されたが、其の主要目的は通商の増進、特にサンビドロ港灣に於ける深水港灣の築造が自論された。防波堤の位置の問題に就いて、以前より當局間と十年餘も紛糾を續けて来たが、一八九六年遂に羅府實業家の勝利となり、サンビドロ灣を以て新防波堤の場所となす決定を見たのである。

今日の躍進状態

一八九〇年に五萬、一九〇〇年には十萬、一九〇五年には二十萬の大市となつたロスアンゼルスは、續いて港灣築成を計畫し始めたのであるが、市自體未だ市外の工業事業を行ふだけの餘裕は無かつたので、前記サンビドロ及びウキルミンソンの合併も畢竟するに、羅府の築港工事を實現させるための一手段と見られるのであつた。サンビドロ港は今や其の巨大な貿易に依つて、驚歎すべき長足の發展を遂げ、世界各國の注視の的となりつつ、米太平洋沿岸の最良港として殷盛振りを示してゐる。この港には世界に誇るべき幾多の海運事業があるが、就中木材輸入とオイルの輸出はその最たるものであらう。港は全米中第二の深水を誇り、汽船會社百八十七社に及び本國は勿論の事世界各國の港へ向つて航路が伸張されてゐる。斯くの如くサンビドロは、太平洋沿岸有数の良港と同時に漁業港でもあり、又、米國太平洋艦隊の根據地たる軍港にもなり、更らに南加に於けるヨットの中心港として「ヨットのメッカ」と謳歌され



セサビンロード漁業棧橋と同胞所有の小漁船

る美しい灣港を有して居る。貿易、通商、水産、國防、軍事、而して水上の遊覽地たるサンビドロは、誠に港の豪華版だと言ふも溢美ではない。以下主要別に摘記せむ。
防波堤……港灣の西方に當るポイント、フアミンより突出せる防波堤の延長は二哩餘に及び幅基部は二百呎、頂部二十呎、高さ平潮時十五呎、其の東端に十萬燭光の燈臺を設置し、その高さ七十三呎あり、海上遙か十四哩より望見し得ることになつて居る。此の燈臺より二千五百呎の間隔を船艦出入路とし、其の東方には、ロスアンゼルス河の氾濫洪水調節水道を設け、西端より一萬二千五百呎沖に、延長五千四百呎の防波堤をも築造中であるが、更らに之れへ二千二百呎増築すると言はれ、港口の燈臺は西側に二個となる計劃中である。尙水深は外港にて干潮時平均四十五呎、内港は三十七呎ある。

棧橋……港外の全長は二十五哩半あり、其の約半分強の六萬六千四百呎が全棧橋の延長呎となる。之れを區分すれば貨物及び船客用棧橋は一萬六千二百二十九呎、材木揚棧橋が一萬七千二百十呎、重油棧橋一萬五千五百六十五呎、船舶用棧橋六千

百十呎、漁船用棧橋三千九百二十三呎其他六千五百三十四呎あり、而して之等棧橋の附屬建築物の九割五分は、ロスアンゼルス市の所有となり市營となつて居る。

鐵道……ハーバー・ベルトライン鐵道會社は波止場に沿ふて延長五十七哩

の綫路を有し、サンタフェ、サウザンパシフィック、ユニオンパシフィック會社等

の鐵道と連絡を取り、貨物の運搬、輸送日に頗る頻繁を極めて居る。

太平洋艦隊根據地……米國西部海岸を防備する爲め南端サンデーゴに軍港を置き、またサンビドロ、ブレオ等にも海軍根據地を設けて居るが、特にサンビドロには、地理的の關係上極めて重要視され、常に太平洋聯合艦隊所屬の主力艦が碇泊し、堂堂海を壓して居る。

造船所……大羅府港の伸展に伴ひ、近年著しく業務を擴大した造船所は、今や一萬二千噸級の船舶を容るる大ドックを有し、現在ベスレヘム、ロスアンゼルス、の兩造船所が殷盛なる業務を示して居るが、まだ海軍用のドックは設置されて居ない。

重油會社……世界一を誇るロングビーチ油田、カンプトン、ウキルミングトン、イングルワード、ガーテナ等々の重油坑を多數控へたる關係上、此の港が一躍重油輸出港となつて世界にデビューし、今やディーゼル機關船の増加に伴ひ年々驚く可き數字に達する重油を輸出して居るが、その主なる會社は、ゼネラル、バンコック、テキサス、ユニオン、ウエスタン、アソシエート、リッチフィールド等の諸會社である。

出入船……今より三十八年前には壹年僅かに五百八隻しかなかつた船舶の出入が、十年後には二千四百五十隻となり、三十年後には二千八百八十六隻となり、三十三年後には六千九十九隻になつて居るが、五年後の今日では恐らく八千を突破するであらうと言はる。

船舶會社……ロスアンゼルス港に本店、又は支店、代理店、代表者を有する船舶會社の數は今や百二社に及び、我が日本側としては日本郵船會社を筆頭に、大阪商船會社、國際汽船會社、三井物産汽船會社、山下汽船會社等である。

貿易事業……一九三五年年度の調査に依れば、二四年七月より三五年七月迄一ヶ年間のロスアンゼルス港貿易額は輸入總量六十四萬二千七百三十九噸、價格七千六百六十一萬四千七百七十二ドルとなり、輸出總量は四百二萬七千五百六十一噸、價格九千二百七萬九千五百三十三弗となり、輸出額の方が二十四萬四千七百四十一弗の超過を示して居る。

日米貿易……日本より輸入總量は八萬五千二百三十二噸、價格二千四百九十九萬九千五百六十五弗、日本へ輸出總量は百三十七萬八千五百八十三噸、價格三千二百六十二萬二千七百五十弗となり、差引七百六十二萬三千八百八十五弗輸出超過を示し、日米貿易上我が日本はアメリカの良き得意客となつて居る。

船客旅客數……來港は客船二千二百二十四隻、船客三十一萬一千四百十人、出港の客數は三十萬八千五十四人（一九三五年調査）

貨物船及び貨物……入船數六千六百五十六隻、貨物噸數一千七百三十四萬一千二十六噸にて右の中、日本船は四百五十二隻となつて居る。

カタリナ島……サンビドロと對峙して、紺碧の海上に浮き上つて居るカタリナ島は、サンビドロ發見者カブリヨの寄港地で、今はチュウインガム王として名高きリグレーの所有にして、四季分ちなき氣候の爲め遊覽地と謳はれ、殊に夏期には客足繁し。ウキルミングトンよりカタリナ、アバロンの美麗な海の花魁船が毎日往復し二時間で達するの外、また水陸兩用の飛行機も通つて居る。

……

第六章 サンピドロ同胞史

初代同胞の足跡

サンピドロ同胞の魁として一番最初に足を踏み入れたのは、一八九九年、前田金藏、筋師重太郎、山本孝太郎の三人で、彼等は移住と同時に市内に於て靴磨き或は家庭勞務に従事して所謂裸一貫の生活を始め、後間もなく漁業の將來性を見透して之れに轉業した。之れと殆んど相前後して一九〇〇年頃に、和歌山縣人畑下良太郎、巽幸兵衛、谷甚四郎、畑下要太郎、浦上文太郎、梶由松、遠見岩松、花村安松、漁野吉郎兵衛、小畑宇吉、畑下三吉、東竹四郎、森、瀬古、木澤等の拾數名が覇氣満々として乗り込み、市街の北方ホワイトポイントの海岬に於て、棟割り長屋に雜居的な生活をしながら、捕鮑漁業に従事する傍ら、鮑魚の罐詰等をも兼營して居た。

(26)

同港の漁業は、一九〇二年即ち我が明治三十五年、前記の筋師重太郎、山本孝太郎の兩人が、五馬力の漁船を使用してクレメント岬附近々海に於て漁業に従事し、主としてデイク・フィツシの漁獲をなし、それを魚市場に供給したと言ふ。恰度その頃、濱下善吉が、ホワイトポイント附近に於て、伊勢海老の捕獲をやり、同地の巽幸兵衛等また捕鮑漁業の傍ら、海老取りをも初めたと云ふから、此地に於ける漁業發展の端緒は、發祥地がホワイトポイントとなり、先驅者は南海の海男子たる、和歌山縣出身の先輩に依つて創始されたものと言へる。

罐詰業の創始

當時サンピドロの總人口は僅々二千人位のもので、日本人の漁業家としては、現在の第五街フェリー波止場に、バラック建ての家が七、八軒あり、其の數も僅か十數名に過ぎないで、今から考へると寔に寥々たるものであつた。そして之等の漁夫は殆んど元氣潑刺たる獨身者が多く、妻帯者として美望の的になつた者は林勝市、畑下春松、城山清次郎、井田菊次郎の四名であつた。また漁船も現今の如き巨大新式なものでなく、洋中に舳かせば一枚の木の葉にも等しい五馬力の小船で、勇敢なる彼等は、之れを巧みに操つて荒れ狂ふ怒濤を物ともせず、海國男子の腕と膽とを練つたものである。

一九〇八年、即ち北加 桑港 大震災後二年目、未だ同地に海産物の罐詰會社が創設されて居ないのを奇貨とした岩手縣人故遠山則善は、同志を語つて鮑の罐詰事業を創立し、製罐は主に米人を通じて遠く布哇に賣り、また其の貝殻は獨逸に輸出したが、遠山を補佐して事業の發展に努めたのは、技師の中原正市、淺利、吉田、矢部等で彼等は三隻の漁船を雇ひ捕鮑等に専ら従事した。然しその後二、三年にして鮑の捕獲も、法律を以て禁止されるに至り、其の他種々な事情もあつて、一九一〇年同會社は解散の止むなきに至つた。

(27)

一九一〇年後

我が明治四十三年には、谷儀太郎、谷徳太郎、高橋虎男、更江、金島等が漁業に就き、翌十一年には、市街と對峙せるターミナル島に、サンピドロ漁業罐詰會社が開設されるに及んで、愈々漁業の將來有望なることが一般に知られ、日本人漁業家も次第に増加して來た。之れと相前後してホワイトスター會社、バンキャンブ罐詰會社、アンブルス會社等が創業され、また隣市ロングビーチ市にも、ウエストコースト罐詰會社、カーチス罐詰會社等が新設されるに至り漁船も五馬力級より一足飛びに十馬力、十二馬力、二十馬力と擴大され、同胞漁夫の數も一躍數百人に増加して來た。

丁度此の當時、中村某の母が小規模の食料品店を同所に營み、續いて濱與三郎が漁具及び漁網店を經營したのが、ターミナル島に於ける商店開設の嚆矢であつた。夫れより五、六年後、即ち一九一六、七年頃になつて、同島内に罐詰會社が雨後の筍の如く續設されるに從ひ、漁業者並に罐詰會社の労働者等續々と來島し、夫れ迄では、全島土砂と小石に覆はれ、獐猛な毒蛇鈴蛇が横行してゐたターミナル島は、人文の發達と共に漸次開發されて、現在の商業域たるツナ街に、櫛比的に商家が建築され、又罐詰會社所屬の家屋も、軒を揃へて建設されると同時に、隣市ロングビーチ罐詰會社の所屬漁船の漁業家が、一舉に此所へ轉住した爲め同胞の數も千餘名に飛躍した。

埋立地の完成

之れより四、五年前の一九一二年頃より、ターミナル島の擴張埋立てが始まり、一方サンピドロ港灣の浚渫工事も俄かに起り、この工事になる海底の土砂はターミナル島に運搬されて埋立てに使用され、一舉兩得の時流に乗つてドンク埋立地は擴張され、一九一五年には現存の教會敷地、青年會館敷地の東北一帯の廣汎地が埋め立てられるに及び、殆んどロングビーチと接續せんばかりになり、又、サンピドロ港口左端にあつた忌しき死人島も、跡形なく取り除けられ、その手前に廣大なる土地を得るに至り、其所に現在の移民局關係の諸建築を設け、更らに亦、港灣一帯に亘つて大改築が開始され、續いてターミナル漁港も擴張改善され、島の北方には海軍飛行場も新設されるに至り、斯くて良港サンピドロは、船舶留埠頭等の整備全く成ると同時に、産業方面の施設も完備を盡して益々發展し、今や各方面より驚異的な眼を以て觀らるるに至つた。

ターミナル島は、恰も我が泉州堺の港に見る漁船留埠頭の如く、多數の大小漁船舳を揃へて並び、島内殆んど我が海の子に依つて圍繞され、現在約三千數百の一大家族的集團地を構成し、年々歳々なる排日漁業法案と惡戰苦闘しつゝも、猶且つ頑と之れに抗して生計を營み、今や牢固拔く可からざる物的基礎を築き、漁船もまた年々新式大型船に擴大して主に沿岸漁業に従事し、他のある者は、超特大型の漁船六、七隻を以て、遠く中南米、或は北航シヤトル附近々海にまで進出し、天晴れ海國男子的な遠洋漁業に従事して居る。

惟ふにサンピドロ在留日本人の今日ある所以は、實に同胞先驅者の臥薪嘗膽、刻苦勉勵、よく次代同胞の將來を透察せる犠牲的精神の結果に依るものである。現在ターミナル島にある、七個の罐詰會社に於て製罐される罐詰は、全米は勿論遠く歐洲に販路を有するに至り、米國産業界に異彩を放てる發展状態を觀る時、如何に同胞漁業家がこの方面に貢献する所の多きかを窺ひ知るであらう。

第七章 サンピドロ諸團體

日本人會

サンピドロ在留同胞が、今日の隆盛發展を齎し得た主因は、素より同胞先驅者の不撓不屈なる奮闘努力と、後進者また其の尊き精神を繼承して善く刻苦精勵した賜であるが、其の間在留民を常に安任の位置に置き、海國男子たる天稟の技倆を遺憾なく發揮せしめたものは、一に懸つて大小團體の功績に俟たねばならない。殊に近年になつて、同胞漁業家の内外充實せる發展に伴ひ、年々歳々、其の發展を阻止せんとする州法案が議會に提出される毎に、在留民の中樞團體たる日本人會、漁業組合等は、民族の福利、日米兩國民の親和をモットーとして抗爭し、未だ最惡の危機に直面することなく今

日に及んで居ることは、移民史上に特筆すべき慶事と言はねばならぬ。



サンビドロ同胞社會に於ける、公共機關團體は日本人會に第一指を折り、之れを主幹として、南加日本人漁業組合、農

業組合、商業組合、父兄會等々が組織され、何れも民族發展、共存共榮、生活の向上を主目的として、それぞれ顯著なる成績を擧げて居る。以下各團體

郎、ターミナル地方より巽勇次、ウキルミングトンより石川繁松、高橋虎雄、本池房市、湯本政市、第十六街地方では中

ルホ合組業漁人本日
サンビドロ日本人會は、在留民の權益福利増進と日米親善を圖るを目的として、一九二〇年、ロサンゼルス日會管轄より脱して創立され、その區域はサンビドロ、ターミナル、ウキルミングトン等の在留民三千數百を總括して設立され爾來十八年間、常に在留民の最高機關となりて意義ある活動をなし來つて居る。これが創立當時の功勞者は東サンビドロ側より創立委員長黒田太郎吉、畑下一三平、谷野熊吉、竹内乙藏、瀧川英次郎、岡淺藏、徳永政吉、柴田春江、鹽地直三郎、和田知二、鹽地宇太郎、谷路友次、中村健太、サンビドロ地方では田中安太郎、田中角次、名倉直吉、中原政市、安藤兵衛、田中五郎、高橋虎雄、本池房市、湯本政市、第十六街地方では中

間仲太郎、藤井柳一、前村熊右衛門、ホワイトポイント地方田中民次、竹宮市太郎、ボルチギースベウンド地方石橋衆吉、前音松、小林重作、植野音吉、レンドン山手地方松本岩松、中谷吉郎等善く協力一致して日本人會を創立と同時に、直ちに使命に向つて活動を開始した。

南加日本人漁業組合

一九二二年頃當時エルエー海産會社の故遠山則善が音頭取りとなつて、水産業者並に漁業家等二百名を語り、サンビドロ漁業組合なるものを設立したが、今日の南加日本人漁業組合の濫觴である。夫れより三年後、即ち一九一五年に至り漁業家の増加に従ひ、業務もまた大擴張し來たので、組合の活動も廣汎なものになつて遂に大同團結なる現組合が産れ、翌一六年三月廿七日加州々廳より財團法人として正式公認されたが、當時の組合員は二百六十八名にて所有漁船の數も百五十二艘に達した。創立當時初代の組合幹部は、組合長畑下一三平、副組合長岡淺藏、會計瀧古龜藏、淺利周藏、幹事横關廣三郎、監査役伊藤實、山西西藏、濱崎太平、谷下清造等選舉當選され、爾來二十有三年間植地久太郎、瀧川英次郎、河内幸次郎、野々下正一、中路定吉、山脇源吉、岡三造、石川繁松、濱口平三郎、龜井捨之助等歴代の組合長に選舉されて會の運行を善く圖り、今日六百餘名の會員と、所有漁船九十數艘を見るに至り、太平洋沿岸に於ける漁業の總元締となつて居る。

大漁音頭

一、ハア、踊りおどるならチヨイト

大漁踊りヨイ〜 月も波間で踊り出す。

ヤートナ ソレヨイ〜。



同胞遠洋漁業之盛況

ヤートナ ソレヨイ〜

- 七、今日も大漁ぢやオーフへつゞく
來るさ行くさの人の群。
- 八、一度來やんせターミナル漁町
生きた魚で濱しろむ。

- 九、大漁つゞきぢや祝へよ踊れ
月が山端へはいるまで。

- 十、八重の潮路を乗切るわしら
意氣と力のこの榮え

- 二、小船大船大漁つゞき
照るや港の陽もうらや。
- 三、男意氣なら漁士の稼業
ドント打つ波たのもしや。
- 四、沖は黒潮魚もおどる
千兩一網腕次第。
- 五、出船入船見送り迎ふ
妻の笑顔の朗らかさ。
- 六、キヤナリ汽笛の絶間もなく

サンピドロ農業組合

サンピドロ農業組合は今日南加州に於て最も模範的組合であつて、其の基礎の堅實と、經濟運行の確實なることは、到底他の追従を許さないと言はれる。同地山の手農園に最初足歩を入れた者は一九一〇年愛知縣人金原であり、翌十一年には畑下良一、谷口市松、植野音吉、大野護藏、石橋衆吉等が同地の有望なることを看破して先驅し、其の後逐年農家の移住増加に伴ひ、一九一六年には早生ビー、スコワシ、胡瓜、トメト、コーン等二千五百英町を耕作するに及び茲に組合の組織を見るに至つた。初代組合長名倉直吉、副組合長中間、中谷吉郎、會計石橋衆吉、藤井柳一選ばれ、また共同販賣研究委員として第一區藤井柳一、第二區大野護藏、第三區高橋善吾、第四區植野音吉當選して積極的活動に着いたのが今日の端緒となつた。今日の耕作面積は二千二百英町、組合員三十八名、總人口二百二十五名を有し、組合を母體として金融部、販賣部、購買部、學務部等を設置し着々健實なる運行を圖つて居る。

ホワイトポイント農業組合

同地方農業の先驅は一九一一年頃、川尻、津田、仲間、田中等が最初であり、一時前記サンピドロ農業組合に加盟して居たが、地主と氣候の異なる點より耕作種別、出荷不同關係から一九二四年分離して新に組合を組織し今日に及んで居る在任者僅かに十三四名に過ぎいなが、耕作面積六百五十英町に及び年々非常な好成績を擧げて居る。

サンピドロ日本人商業組合

サンピドロに於ける日本人漁業家の移住増加に伴ひ、同胞商家もまた之れに伴つて發展し行けることも當然であるが、組合の創立を見た一九二三年當時より、劃期的に商取引の隆盛を見、爾來十有五年を経て今日の如き發展を呈するに至つ

て居る。組合創立當時の會員僅か四十三名なりしも、今日では殆んど倍加し店舗の完備と商取引の頻繁さは毫も米人同業者と遜色なく年々歳々其の増額を示して居る。歴代組合長は濱與三郎、長尾定藏、橋本數市等選舉せられて會の運用を圖つて居るが、近年橋本數市殆んど重任に當りその發展上に盡瘁する所深い。

東サンピドロ婦人會

一九一九年頃ミス、オバーなる教師に英語の教授を受けた數名の同胞婦人等が、相集ふて俱樂部的な團體を組織されたのが婦人會の濫觴となり、一九二〇年三月廿八日正式に東サンピドロ婦人會を創立するに至り、ミス、オバーを名譽相談役とし、理事二十名と左の幹事を選擧した。會計三尾タネ、瀧川キン、幹事那須喜代、井上彌生、其後十八ヶ年間は横關、原、石川、南、山科、畑一三平、畑下澤、中路、林、山本、泉、橋本、岡、藤内、橋本良、近藤、中筋、清水、宮本、故伊藤、濱下、鈴木、國府田、並川、村上、岩崎、高橋、石井、瀬古、小東、吉積の婦人等極力會のため盡瘁し、今日三百名の會員を擁して公立學校と家庭の聯絡、各自の修養に努めて居る。

其他の各團體

サンピドロ日本人青年會は一九二〇年創立され、會が母體となつて水泳部、柔道部、相撲部をも設置して今日に至り、東サンピドロ父兄會、北米武德會南加聯盟、サンピドロ剣道支部、サンピドロ日系市民協會、東サンピドロ聖書學團、曹給學團、サンピドロ日本語學團、バプテスト教會、大神宮教會、ボーイスカウト、片田學校々々友會北米支部、天理教會、庭園業組合、在郷軍人八分團、太地人會、片田村人會、静岡縣人産業協會、南加蒲原町人會、田並郷友會、和深村人會

江住村人會、田原村人會、在米宇久井村人會、日高親友會等の諸團體が現存し、皆なその目的に向つて着々と業績を擧げつゝある。

青年會の歌

(一)岸うつ波は太平の

緑り滴る南加州

星條旗の其の下に

若き海國青年の

前途は如何に多事ならん

勉め勵まん國の爲

(二)世界の平和人類の

福祉を求め人格の

全を成さん世の旅に

逆巻く怒濤蹴破りて

米大陸に奮闘す

吾が青年の意氣高し

(三)自由平等博愛の

旗翻るサンピドロ

愛兒と成る幾百の

大和男子の片影を

友情溢れ親密に

契りも深し青年會

(四)怒濤突破の意氣を持ち

夏は漁村の鮎釣り

秋は學びの學園に

獨立自營の坂上る

強き海國青年の

集は是よ青年會

(五)世界の爲に智を磨き

腕を鍊へし海陸に

希望の峰の月高く
理想の淵の水清し

人生の努力奮闘に
撓れて止まん大和魂

相撲 應援歌

見よや散港の健男兒 見よや散港の角力團
腕を振ふはこの時ぞ 振へ々々
フレー〜健男兒 フレー〜角力團

鍛へに鍛へし鋼鐵の その腕を見よ
太平洋を住居とし 群がる鯨魚を友となす

散港男兒の高き意氣 振へ々々
フレー〜健男兒 フレー〜角力團
怒濤の上に鍛へたる その意氣を見よ
フレー〜 フレー〜サンビドロ。

今出た力士はあれや誰ぢや

あれは散港の〇〇〇

ソラどんと投げどんと投げよ。

今勝つた力士はあれや誰ぢや

あれは散港の〇〇〇

ソラどんと投げどんと投げよ

第八章 サンビドロ支部略史

剣道部創立の概要

北米武徳會南加聯盟の樞軸を爲せる、サンビドロに、支部が今日二百數十名に達する剣士を抱擁し、其の技倆の卓越、其の品性の特に傑出せる實績を齎し得る迄には、過去十ヶ年の春秋、幾多の苦闘と善く戦ひ抜いた結果に外ならない。

抑も此地に剣道の普及を見たのは、一九二一年の春頃、同地に在留せる岩手縣人遠山則善が、聊か其の道に通ずる處から、青年會員を叫合し同會内に剣道部を新設して、専ら教授の任に當つたのが、先づ此地に於ける剣道の濫觴となつたのである。然しながら當時の一般在留民には、全く剣道の認識がなく、遠山の獻身的努力は毫も認められない中に、彼は或る夜、剣道指南の最中不幸心臓麻痺で急死し、その爲め漸く擡頭しかかつた剣道も哀れ中絶の止むなきに至つた。

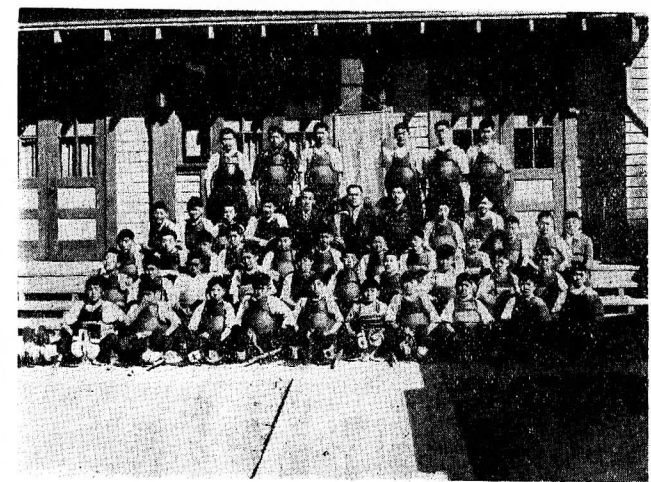


第一回 剣道講習會

其後翌二二年頃、ロスアンゼルス剣道師範として名ある木島劍士が來島し、斯道に盡せる遠山則善の意志を繼承して、再び青年に呼びかけて熱心に教授を開始したが、之れ亦旬日にして中止の運命に陥つた。恰も之れと相前後して、現南加

聯盟の總師範たる藤井登六が米國に於ける齒科學研究の爲め渡米し、同郷の先輩知己を訪ねて此地に在留した。彼は中學及び齒科專門學校當時、劍道を修練した關係上、直ちに身を提して劍道部の再建を圖り、極く少數の青少年を相手に、劍道の指南を開始した

が、未だ一般父兄の氣分は、劍道と言ふものは單なる竹刀の叩き合ひとしか認めず、毫しもなく乘氣にならぬのみかこれを好んで學ばん*



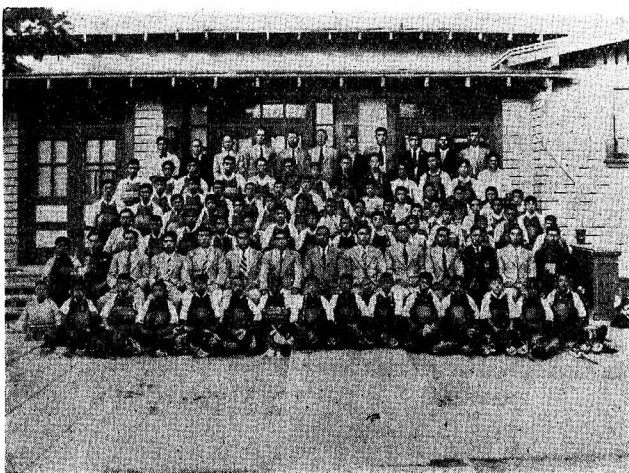
支設部の立功勞者藤井登六太四郎劍士大別會

從兄弟の藤井太四郎劍道部々長と協力して、齒科醫業の傍ら、殆んど寢食を忘れて教授した甲斐あつて、子弟等の技倆も

中村藤井の結合

劍道部の再建設以來、一ケ年有餘の間、師範藤井登六は

段々進境を示して来た。その年、即ち一九二九年九月廿七日、朝鮮武徳館々長中村藤吉が、中原四段、秋田三段を引率して渡米し、サンビドロに於ける武道實演並に講習の件を、或る人を介して藤井登六に交渉があつたので、彼は直ちに拾數名の有志を自宅に招き次代青年と日本武道精神注入の緊急なる事を力説して、賛成を求めたが、時の空氣は未だ其所まで熱して居らなかつたので遂に贊意*

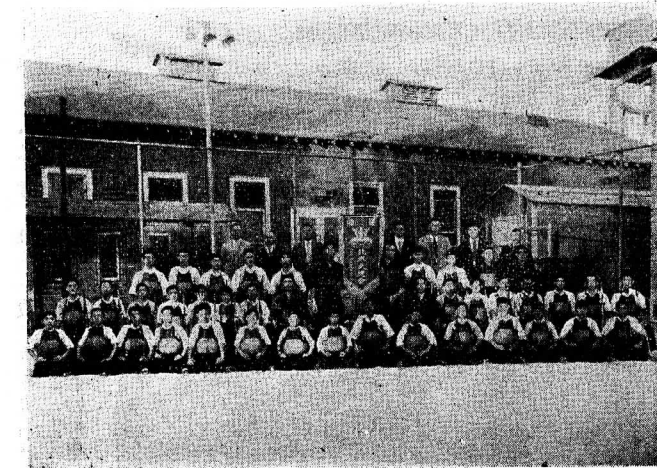


早稻田大學劍道大會

朝鮮武徳館々長中村藤吉が、中原四段、秋田三段を引率して渡米し、サンビドロに於ける武道實演並に講習の件を、或る人を介して藤井登六に交渉があつたので、彼は直ちに拾數名の有志を自宅に招き次代青年と日本武道精神注入の緊急なる事を力説して、賛成を求めたが、時の空氣は未だ其所まで熱して居らなかつたので遂に贊意*

一切の物質の要求はせぬから、まあ一度、僕の實演を見て呉れないか」と、あつさり切り出した處から、藤井登六、

中村一行の來演



全米劍道大會優勝記念撮影寫

講演並に演武大會を舉行したが、當夜は特にロスアンゼルス劍道々場より、木島師範を始め多數の門弟劍士等が、應援の爲め出場し非常な盛會を極めたが、特に當夜の劍道試合に於て、サンビドロの師範藤井登六の非凡なる業を見た中村藤吉は、大日本武徳會三段の技倆ありと認め、藤井を三段に推擧する旨を觀衆に發表した。劍道に毫も認識を持たない一般觀衆は、中村藤吉が朝鮮武徳館々長である點より觀て、藤井の三段は朝鮮三段なりと冷笑したので、藤井は先覺伊藤竹次郎ドクトル及び、三尾善松に語つて、前記三段の推薦を斷らんとしたが、兩名共その自らを卑下する誤りを説き、喜んで夫れを受く可きことを勧めた。其所で藤井は、世人の冷笑罵詈が如何に猛烈であるとも、劍を語り得る心友ありと力強く感じて之れを受け、更らに三段の價値あるや否やは、自ら別個の問題として、大に劍道に

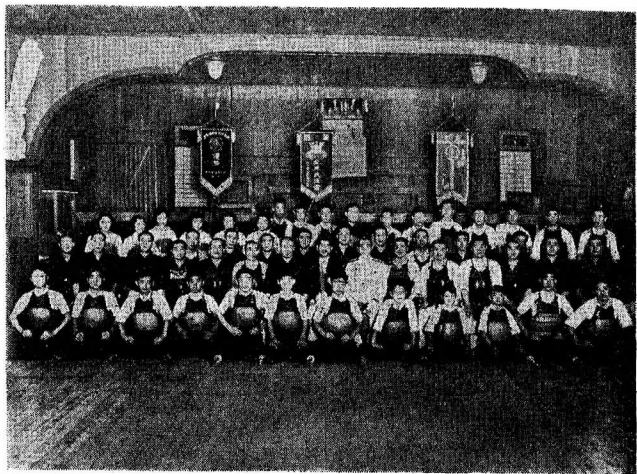
藤井太四郎の兩名も、中村の潔白なる意氣に感じて、『よろしい、じゃお出で下さい』と受け合つて歸つた。

藤井兩名は、中村との約束を果すべく、極力反對者の説伏に努めた結果、演武大會だけやることになり、十一月末日、漁業組合ホールに於て中村一行の*

練磨精進せんことを心中深く誓つた。この時の藤井の堅い決意が、十年後の今日、南加聯盟をして、他に比類なきまで發展させると同時に、彼自身もまた朝鮮三段の冷笑裡を遙かに脱して、大日本武徳會劍道五段、練士にまで昇進し、北米武徳會總師範

劍道教士たる恩師中村藤吉の留守中は、彼が衆望を荷つて、其の代理を勤めるに至つて居るのである

中村の根城決



練習艦隊乗組劍士歡迎劍道大會

の後ろ楯として、熱心に父兄を説き廻つた結果、僅かに三尾善松の長男讓治(當時六歳)が先んじて入門し、ヨチ／＼し

劍道の講演々武公開に於て、非常な感銘を興へた中村藤吉一行は、此の機會に續いて講習を開始し、大日本帝國劍道の形を基本として、其の初歩から講義教授したいと言ふ提議に對し、藤井はまた有志並に青年會幹部を集めて、中村師範の意のある處を傳へると同時に、日頃抱懐する自己の意見をも加へて賛成を求めたが、まだ猛烈な反對があつて容易に實現しない。其所で彼はまた、従兄弟の藤井太四郎に語り、彼の鐵嘴的力援を借りて、單獨、中村師範一行の來講を引き受けた。藤井登六の快諾を喜んだ中村師範は、十二月十二日ロスアンゼルスに假宿を引き擧げて、サンビドロに暫く滞在することになつた。當時中村師範は秋田三段を一行中より歸し、中原四段を伴つて來航したので、藤井は先づ、劍道に深き理解を持つドクトル伊藤竹次郎、三尾善松、岡三藏、濱口平三郎、藤井太四郎等を自己

ながら講習を受け始めた。

六歳の腕白小僧が、熱心に剣道の講習を受くると同時に、之れを目撃した三十名の青少年等は、續々入門した。當時第一回の講習

を進んで受

けた者等は

三尾讓治

林文吉

竹内誠

岡本利男

沖本猛

山本等

山下昇

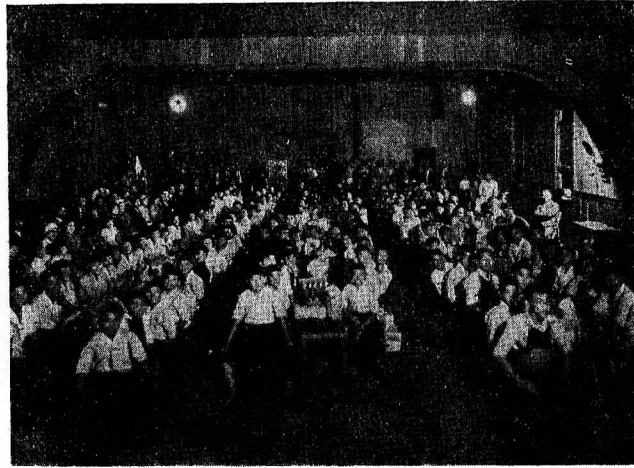
坂上正治

松下繁

中西正春

中地茂

を錬り鍛へた彼等は、善くこの萬難を突破して、一意専心二世の教養に精進した。



會賀祝來歸士錬六登井藤

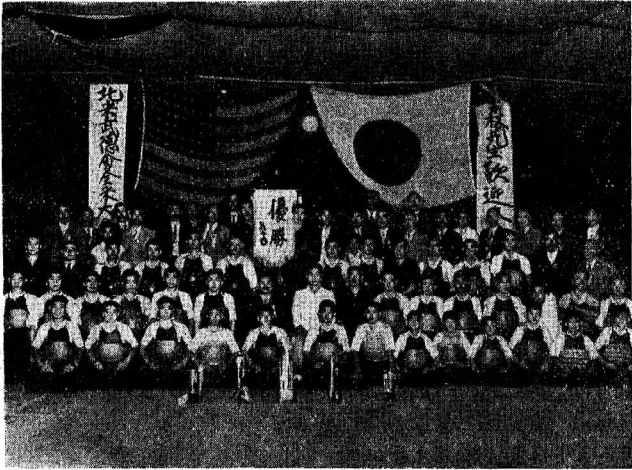
- *山本 博、林 義松、山本勝(亡)、泉 敏郎
- 西田徳三郎、橋本 市次、淺利 時男、中西 末男
- 橋本 辰一、山本 喬、江戸 太郎、山本 健二
- 奥野 勝巳、巽 幸雄、原 巖、林 時男
- 中崎 春巳、倉本 恒雄、岩崎 暢雄

此の間に至るドクトル伊藤竹次郎、岡三藏、濱口平三郎三尾善松、藤井太四郎等が、藤井を後援した熱意は、また特筆大書すべきものがあり、若し此の五名が此地に在留しなかつたならば、恐らく今日の隆盛もなければ、劍士藤井登六の存在もないであらう。時代の革命児には、色々な難蹠が起伏する如く、北米の天地に眞の日本の剣道を廣めんとする中村藤吉及び、彼を取巻く弟子等の頭上には、一雨去つてまた一雨來るが如く、難事續出して、さらぬだに痛める彼等の心身を搖さざる事多かつたが、不撓不屈の精神

中村藤井の誠意

第一回の

講習は始め
たが、肝賢
な道具がな
い。青年會
内に埃を冠
つた古道具
を集めても
猶不足を告
げたので、
ロスアンゼ
ルスに走つ
て、道具を
拾ひ集め
る。斯くて前記伊藤、三尾、岡、濱口、藤井各後援者の外に、



寫撮念記迎歡士錬雄寅森士敦村中

*たり、中村一行の携帶する道具をも合せて、漸々應急の間には合せたが、何れも片輪物ばかりであつた。講習は十二月十七日より始まり、約二ヶ月間、毎夜漁業組合ホールに於て熱心に行はれたが、此の僅かな期間内に、講習生三十名の特異的な變化は、技倆の進歩發達と言ふよりも、彼等の日夜の起居動作から、儀禮の上に一際眼立つて顯著なものがあつた。此地は人も知る三千有餘の海の荒男が雜居し随つて、其の風紀禮儀上には誠に聲譽すべきものがあつて、白紙の如き兒童等に、識らず識らずその悪風が感染し、心ある者をして常に顔を撃めさせて居たのであるが、此の短期間の剣道講習に於て、講習生は勿論のこと、彼等を友とする一般兒童等が、前者の善き禮儀作法を眞似るに至り、從來の悪風も漸く一掃されんとする結果を齎し得たので、俄然、日本剣道の熱が漁村を壓するに至つたのである。戸間鶴松、橋本數市、原乙滋、平賀重昌、泉九一、故竹内

乙藏、中地嘉七、畑下常三、河内幸次郎、漁野大兵衛等また進んで後援者となり、之等が主唱の下に、二九年の暮正式にサンビドロ青年會内に、剣道部を設立すると同時に、左の幹部を選擧して、突貫的應援支持をすることになった。

剣道部後援會長	伊藤竹次郎	師範	藤井登六
剣道々々場監督	竹内乙藏	助教	藤井太四郎
後援會幹事	平賀重昌	同	中家正一
師範兼顧問	中村藤吉	同	吉田徳一
		同	池田文淵

此の後援會なるものが、即ち今日の、サンビドロ支部の母體となつたのである。同年二月中旬、中村師範一行は、北米の天地を開拓すべき根城が出来たので、藤井登六の東道にて南加州沿岸ガタールプに出發し、同地の元老南彌右衛門、荒谷節夫、中瀬福太郎、小山四郎一、友岡豊吉、石井忠平、等の後援を以て、新に剣道の講習をなすことになった。その後藤井師範の熱心なる教授振りは、隣地ドミンクスヒール、ロングビーチ、ノーオーク等の在留民有志間に響き亘り、請はれて新に三支部を設立自ら教授の任に當ることになつて、爾來十一年の今日に及んで居る。今左に創立當時より今日迄の役員、並に主要事項を年代順に摘記することにした。

一九二九年度

後援會々々長	伊藤竹次郎	道場監督	竹内乙藏
剣道部長	藤井太四郎	幹事	平賀重昌
顧問	中村藤吉	師範	藤井登六

助教	藤井太四郎	池田文淵	吉田徳一
	中家正一		

一九三〇年度

理事長	伊藤竹次郎	副理事長	原乙滋
會計	橋本數市	同	戸間鶴松
監査	泉九昌	同	濱口平三郎
幹事	平賀重昌	師範	藤井登六

主要事項

- 一、藤井師範子弟を引率して、南加各地道場を巡回し、斯道の修練に努む。
- 一、藤井師範門弟林文吉を同伴して、中村師範一行の實演講習應援の爲め、北加サリナス地方の大會に出場し、南加新進剣士の氣を吐く。
- 一、冬期中毎朝未明より寒稽古を開始し、大に心身の練磨に精進す。

一九三一年度

理事長	伊藤竹次郎	副理事長	原乙滋
會計	橋本數市	同	戸間鶴松
監査	泉九昌	同	濱口平三郎
幹事	平賀重昌	師範	藤井登六

主要事項

- 一、同年春、斯道の練習には、先輩である隣市レドンド及び、トーレンス修道場劍士等に迎へられて、初めて團體試合なるものをやり、自己修得の腕を試した結果、壓倒的大勝利を博し、中村師範寄贈の優勝旗を獲得したので、之れに氣を得た劍士一同は益々剣道の修業に練磨し出すと同時に、劍士同志は相互に語り合ひ、友達又は後輩等を勧誘すると言ふ有様で、俄然劍士の數を倍加するに至つた。而してこの對抗試合に於て獲得せる、中村師範の優勝旗は、其後同劍道修道場が解散した爲め、永久にサンピドロ劍道支部が保管することになつた。
- 一、同年夏、藤井師範は子弟八名を引卒し、北加桑港に於いて開催された桑港劍道大會に出席し、優秀なる成績を擧げてサンピドロ劍士の爲め大に氣を吐く。
- 一、同年夏、高野佐三郎師範士の引卒になる、早稻田大學劍士一行を招待して大に技を練る。
- 一、土用稽古二週間開始す。
- 一、寒中二週間の寒稽古をなす。

一九三二年度

理事長	伊藤竹次郎	副理事長	原乙滋
會計	橋本數市	會計	戸間鶴松
監査	泉九一	監査	濱口平三郎
幹事	賀重昌	師範	藤井登六
主要事項			

- 一、同年春ドミングスヒルに、劍道部が設置され地方有志の切望に依り、當道場の藤井師範出張教授をすることになる。
- 一、南加各地方の劍道大會に出席し、團體優勝又は個人優勝者數名ありて、漸く劍の妙味に入る。
- 一、土用稽古を開催。
- 一、同年の初秋、中村藤吉師範再び來港し、之れを機會に新入生徒募集並に講習會を開催。
- 一、在ロスアンゼルスの日米協會の懇望に依り、日米親善上、劍道試合を米人に公開し多大な好評を博す。
- 一、練習船大成丸來船に際し、同船の劍士數十名を招待し歓迎劍道試合を舉行す。

一九三三年度

理事長	原乙滋	副理事長	橋本數市
會計	中地嘉七	會計	畑下帝三
監査	泉九一	監査	濱口平三郎
幹事	竹内幸助	師範	藤井登六
主要事項			

- 一、同年夏、ロスアンゼルスに於て舉行されたオリムピックのマスゲームに、藤井師範は劍士四拾數名を撰つて出場し、我が日本の武道を廣く紹介し絶讚的好評を博す。
- 一、同じくロスアンゼルスに於て開催された、オリムピック南加二十道場聯合劍道大會に出席し、斷然他の道場劍士を壓倒して優秀なる成績を擧げ、青年部一中西繁、少年部一竹内誠、幼年部一寺田良治と言ふ如く、青、少

幼年の三部ともに優勝し、中村師範並に藤井師範直傳の腕前を發揮した。

一、土用及び寒稽古開始。

一、本會の元老戸間鶴松附添ひの下に、チウラベスタ地方に修業旅行をなし、同地剣道部員と試合をなす。

註、同年夏の南加二十道場聯合剣道大會後より、サンビドロ剣道支部は、南加側の各剣道々場より異端者の如く扱はれ、日に月に壓迫を加へられるに至つた。

一九三三四年度

理事	橋本 數市	副理事長	入江 孝四郎
會計	中地 嘉七	會計	畑 下 帝三
監査	濱口 平三郎	監査	原 乙 滋
幹事	竹内 幸助	師範	藤井 登六

主要事項

一、同年春藤井登六師範は、鍊士證獲得の爲め日本に出發し、その留守中、平野五段をして擔當せしむ。

一、同年七月一日、二日の兩日北加桑港に於て開催されたる日米新聞社主催なる北米武徳會全米剣道大會に、藤井師範代理平野五段、戸間鶴松等多數鍊士を引率して出場し、講談社々長野間清治及び、日米新聞社寄贈の優勝旗争覇戦を行ひ、我が鍊士優勝して兩社寄贈の優勝旗を獲得。

一、藤井師範歸國後は、野間道場及び京都に於て猛烈なる練習をなし、同春の受験大會に於て目出度く合格し、鍊士號獲得の報があつた。吉報に接した父兄の喜びは非常なもので、同地發行の南沿岸時報社は左の記事を發表して、藤井師範多年の犠牲的貢獻に酬ゆる所あつた。

藤井師範鍊士號を獲得

當地剣道部の師範として、過去五ヶ年間、殆んど犠牲的獻身を以て、誠實且つ懇篤に青少年子弟を教授感化し、徳育技術共に模範的の好成績を齎して、一般より多大な感激を受けて居た藤井登六氏は、過般短期の豫定を以て歸朝した處、恰も五月中旬京都に於て大日本武徳會の大會舉行されたるを機會に出場し、多數斯道の大家巨星に其の技術を認められ、米國より出場最初の榮譽ある精鍊士を認可されたと云ふ吉報に接し、後援會は勿論、一般在留民も殊の外喜び、當地より斯くの如き異才的人物を出したるは之れ偏に剣道の賜なりと大に喜びを頒つて居る。猶同氏の剣道修練の努力と、物に屈せざる健剛なる精神とは、夙に恩師中村藤吉師範も認め居り、有に四段以上の技倆ありと折紙を附けて居た爲で、今回此の名譽は期せずして豫知された次第であるが、夫れにしても日本剣道の本家本元たる京都武徳會大會に於て、多數精銳なる鍊士を凌駕して此の稀有の成績を贏ち得た藤井師範の精進振りは、實に特筆大書に値ひすべく、大に慶ばざるを得ない次第である。

- 一、藤井鍊士歸米と共に、永田師範は中加地方の各地支部師範に轉ず。
- 一、中村藤吉師範の献身的努力認められ、大日本武徳會より鍊士號授與さる。
- 一、中村鍊士の應援をかりて、隣村ノーオークに剣道部を新設し、藤井鍊士師範の任に當り出張教授をなす。
- 一、ドミングス道場鍊士と試合を開催、この時始めて女子鍊士十三名入門す。

- 一、北米武徳會南加聯盟を組織し、總本部をサンビドロ支部に設置し、ロングビーチ、ドミングスビル、ノーオークは各支部となる。
- 二、南加聯盟主催の下に、藤井師範の錬士號獲得祝賀、及び全米大會優勝旗獲得祝賀劍道大會を舉行す。
- 三、帝國特務艦乗組劍士を招待して修練す。此の頃より漸く初段級の劍士一、二名を見る。
- 一、土用及び寒稽古を開催。

一九三五年 度

理事長	橋本 數市	副理事長	原 乙滋
副理事長	泉 九一	會計	山本 永作
同 中地 嘉七	監 査	濱 口 平三郎	
木 幡 強	會計及び幹事	畑 下 帝三	

主要事項

- 一、中村教士寄贈になる優勝旗争奪戦を行ふことになり、南加聯盟劍道大會を開催し、互ひに雌雄を決した結果、優勝旗はロングビーチ支部獲得。
- 一、第二回優勝旗争奪戦を舉行し、ノーオーク支部之れを獲得。
- 一、同年十一月南加聯盟有段者會を創立。
- 一、續いて第三回優勝旗争奪戦を決定し、我がサンビドロ支部獲得。
- 一、特務艦の來航に際し、乗組劍士を招待し劍道の修練に努む。

一、中村教士寄贈の優勝旗争奪大會を開催した結果、中村教士の優勝旗はサンビドロ支部獲得し、他の優勝旗はロングビーチ支部が獲得。

一、土用及び寒稽古も引き續いて行ふ。

一、北米武徳會全米劍道大會が、八月十八日北加サクラメント市アーモリホールに於て開催され南加、中加、北加、サンオーキン、沿岸の五個聯盟劍士二千名が出場参加するに當り、我が南加聯盟は

- ▲幼年部……古賀博志、東睦雄、入江孝、山本英夫、石田博、中地徹、戸間誠哉、二村輝男
- ▲幼年部……川崎保、板谷純治、上田英男、巽恭男、江戸太郎、清水元一郎、桑原正和、橋本由雄
- ▲少年部……原 巖、主將 寺田良二
- ▲青年部……橋本由雄、泉敏郎、竹内誠、中西繁、橋本辰一、藤井章奇知、淺利時男、山本博
- 副將 中地 茂、主將 林 文吉

等の新進氣鋭を出場せしめ、多數父兄も附添役となつて堂々と乗り込む。大會は前年度よりも遙かに本格的化し、各地出場の劍士等華々しく鋭鋒火花を散らして決戦したが、我が南加側の堅陣最後まで守り得て遂に二度優勝旗を獲得。

堀領事の希望

同年に至り、羅府劍道々場劍士等は、大日本武徳會の傘下に組することになり、時のロスアンゼルス領事堀公一は、推されて其の支部會長に就任したので、彼は此の機會に於て、全南加州に散在する各地劍道々場の劍士を一括して、大日本

帝國武德會に入會せしめる可く發意し、先づ羅府道場の責任者等と語り、大同團結の旗幟を翳して、北米武德會南加聯盟に會見を申込んで来た。其所で南加聯盟側では、當時サンビドロ日本人會々々長大倉百太を、日會代表の立會者として聯盟側より藤井登六、平賀重昌、桑原晋吉、江口道徳、戸間鶴松、板谷純造、泉九一の七名が代表者となり、領事館に堀公一領事を訪ねて、會見の内容に就き種々討議する處あつたが、その主張する點が、『大日本帝國武德會が、今回當地に南加支部なるものを正式に組織することになつたから、諸君も過去の一切の感情を放擲して、之れに加盟して貰ひたい』と言ふにあつた處から、藤井登六は、『大日本武德會に加盟せるロスアンゼルス側の責任者と會見し、腹藏なく意見を交換したいから、領事の斡旋を頼む』と希望したが、遂にその實現を見るに至らず、兩團體對立の儘今日に及んで居る。

一九三六年度

理事長	泉 九一	副理事長	河内 幸次
副理事長	木 幡 强	會計	中地 嘉七
同 事	山本 永作	監 査	濱口 平三郎
幹 事	平賀 重昌	師 範	藤井 登六
顧問	戸間 鶴松	同 師	原 乙 滋

主要事項

- 一、昨秋創立を見た南加聯盟有段者會の發會式を舉行し、益々劍士相互の精神體育練習を決意す。
- 一、中村教士寄贈の優勝旗爭奪試合を開催したが、二流共にドミングスヒール支部獲得。

一九三七年度

- 一、チウラベスタ劍道部へ修練旅行を爲す。
- 幹部は前年度と同じ。

顧問 戸間 鶴松 原 乙 滋 橋本 數市 中地 嘉七

主要事項

- 一、同年の新春匆匆、羅府駐在堀公一領事より再度の會見希望があり、師範藤井登六面會したるも、依前同様の希望にて大日本武德會と合同せよとあるので、今更ら師恩に悖ることもならず、領事斡旋の勞を謝して堅く之れを斷る。
- 一、同年四月、森寅雄劍士渡米せるを、藤井劍士出迎へに行く。
- 一、同年五月廿六日、劍士藤井登六、大日本武德會より劍道五段を允許さる。
- 一、同年五月、森寅雄劍士、我が支部劍士等の稽古參觀に來り、其の禮儀作法の整然、その品格ある劍の業を非常に賞讃し、次週より稽古することを約束す。
- 一、同年五月半頃より森寅雄劍士、態々遠くロスアンゼルスより稽古に來る不便を思ひ、南加聯盟は森劍士の勞に聊か酬ゆる爲め、クライスラー二人乗り新自動車を贈呈す。
- 一、森劍士の熱心なる月餘の稽古に依り、南加聯盟劍士中、特にサンビドロ劍士の技倆は躍進的上達を示す。
- 一、同年七月四日、五日の兩日、北米武德會全米大會を我がサンビドロに於て舉行。參加の劍士は中加、サンオーキン

北加沿岸（西北部は遠隔の爲參加不能）の各聯盟支部より一千の猛者勇しく乗り込み、サンビドロは時ならぬ大盛況を呈す。而して本大會の初日は、森寅雄鍊士歡迎大會とし、五日は國土頭山滿奇贈の優勝旗爭奪劍道大會とし、參加五個聯盟の劍士鎗を削つて大接戦の結果、又々南加聯盟が優勝して名譽ある頭山旗を獲得。

一、同年七月廿五日、南加聯盟劍士藤井章奇知、泉敏郎、清水元一郎、寺田良二、桑原正和、原巖、江戸太郎、二村輝男、桑原義行、漁野恭一、寺田眞之、棚町繁の十二名を、師範藤井登六鍊士、顧問戸間鶴松の兩名が統率し、隨行客森寅雄鍊士、辻元彦齒科醫の二名を加へて、一行十六名が劍道修業の旅に出發し、先づ中加フレスノ、サンオーキン聯盟本部スタクトン、北加聯盟サクラメントの各聯盟所在地に於て試合し、更らに進んで、遠く西北部聯盟支部にまで遠征しオレゴン州ポートランド、華州タマコ、シアトル支部及び、シアトル劍道會等をも巡歴試合をなし、歸途は北加サンフラシスコ、アルバード本部、サリナス支部等にも立ち寄つて競技し、到る處優勝の好成績を擧げて八月七日無事歸る。

往復の行程約三千哩に及ぶ長途の遠征に、一行中一名の劍士病む者なきまで、心身共に鍛鍊せる實蹟を擧げた。

一、同年十月中村藤吉鍊士は、母國東京に建設中なる北米武徳會皇道學院の件につき、武者修業の劍士及び留學生拾數名を引率して歸國するに當り、挨拶に来る。

一九三八年度

- 理事長 河内幸次郎 副理事長 濱口平三郎 會計 漁野大兵衛
 會計 畑下帝三
 監査 泉 九一 橋本數市 幹事 山西一平 相談役 戸間鶴松

理事 原 乙 滋 三尾善松 入江孝四郎 清水清一 前田彌吉
 橋本良吉 寺田良太郎 奥山與一郎 清水寅市 江戸金太郎
 戸間壽美一 鈴木政藏 鈴木與平 中村秋松 濱 與三郎
 山本逸雄 小磯鈴之助 木 幡 強 内藤安太郎 上田元太郎

一、北米武徳會十年紀念の爲め、『北米劍道大鑑』發行に當り、之れが執筆編纂事務一切を武徳會より依頼されし日米新聞社員藤井一劍來港に際し、師範藤井登六、顧問戸間鶴松、橋本數市等協力して材料蒐集に努力す。

一、本春、我が南加聯盟各支部に特別に稽古をつけし森寅雄鍊士は、全南加州に於けるフェンシング・チャンピオンシップ争覇戦に出場し、技入神の業を以て撫で斬りし、全南加チャンピオンの榮冠を獲得す。

森寅雄と藤井登六

サンビドロ支部の沿革史は、殘された摘記的記録に據れば、先づ以上の如きものであるが、最後に、南加聯盟の各劍士が、茲一ヶ年未滿の裡に、飛躍的技倆の上達を示せる原因につき、其の短期指導者たる鍊士森寅雄と、藤井登六鍊士とが各自出發を異にせる異分子同志の立場にありながら、何が因縁となつて、今日斯くも師弟以上の密接な關係を結ぶに至つたか？ に就き、一言之れを述べて置きたい。

一九三四年九月藤井登六は、鍊士號獲得の目的を以て歸國し、講談俱樂部社長及び、其の長男野間恒、森寅雄、野間道場師範持田盛二鍊士、増田眞助等より絶大な援助庇護を受けた關係から、同三十七年四月森寅雄鍊士が、歐米のフェンシング視察の爲め布哇經由にて渡米するや、彼は直ちに森寅雄を出迎へ、機會あらばサンビドロ劍士等に、一手の教授を願ふ

肚であつたが、森の渡米第二の目的は、大日本武徳會に屬する南加劍士へ、劍道を教授するにあつた處から、彼は後日を約して一旦森と袂れ、四月某日曜日、彼は單身私かに森鍊士を旅宿に訪れて、北米武徳會の創立及び、南加聯盟對大日本武徳會南加支部との關係を、胸襟を開いて逐一語つた。眞實面に現はれたる藤井の話に、森の腦底に潜んで居た北米武徳會と、中村藤吉劍士に關聯する世評の、其の眞實性に乏しいことが判りかゝつて來たので、彼は「兎に角一度是非御覽下さい」と約して歸つた。

實は森鍊士としては、日本出發當初より、北米武徳會並に中村劍士に關する、幾多忌しい風評を耳にしてゐた關係上先入主的に好感を持てなかつたので、あつさり知らぬ顔をして通過する肚であつたが、既知の劍友である藤井の熱心なる勧誘に動かされて、次週私かにサンビドロを訪れ、當夜漁業組合ホールに於ける稽古場を覗いて觀た。彼の清酒な白顔か道場に現はれると、百數十名の男女青少年劍士等は、先を争ふて禮儀正しい挨拶をする。纏て藤井鍊士の號令に依り、竹刀を執つて基本動作に移ると、劍士皆な歩調整然、態度嚴格、劍技また鋭鋒を極めて居り、森鍊士は全く曩の想像を裏切られ、感歎や、久しくするものがあつた。と同時に、北米武徳會並に中村劍士に對する、冷酷に過ぎる世評の全く當らざるを初めて知つた。

恩師を想ふ藤井鍊士の誠意は、遂に森鍊士を動かすに至つたのみならず、劍道界の麒麟兒たる劍豪森をして、遠く二拾數哩のロスアンゼルスから、毎週一夜、態々稽古をつけに出張するてふことをも約束し、彼は雀躍して歡喜した。其後と言ふもの森鍊士は、風雨寒暑の厭ひなく、必ず毎週一回づゝ出張して居たが、若き劍士等がぐんぐん進境を示すに従ひ、森自身も遂に興味高調に達して週二回となり、或る時は三回も教授することもあり、隨つて劍豪森を迎へて以來と言ふものは、劍士各自の技術の上達は勿論、劍の品位まで躍如と現はれ、全米劍道大會には優勝し、武者修業には到る處、壓倒

的勝利を博するに至る進境を示したのである。

更らに藤井鍊士の、子弟教授上に於ける、眞に武士道的、虚心且懐なる精神には、心ある人をして皆な感激せしめて居る。夫れは、森鍊士の新教授法に依り、自己の過去十ヶ年間教へ來た劍の形、及び劍法の間違ひ、又は改良すべき點を自覺するや、彼は子弟に對して毫も憶する所なく「私が諸君に今迄で教へて居た此の形、此の劍法は、森先生からその短所缺點を教へられて、眞く間違つてゐることが判つたから、今日唯今より改めます。諸君も、古い私の手法を矯めて直ちに森先生の教へに従ふ可し」と、改まつて憚る所なく、又、隨時隨所に見る劍道家のよく陥り易い、有我獨存的な、高慢な精神がなく、自らへり下つて教を乞ふ禮儀正しい態度は、實に子弟に取り、恰好の善き手本である。藤井の此の高潔な人格に動かされたる森鍊士は、道場にありては一日の長を發揮するも、家に在りては、常に年長の藤井を尊敬し、時に兄となり師となり、時に弟となつて、兩者の關係は、心身共に通じ合つて今日の親密を結ぶに至つて居る。

支部役員及び劍士略歴

サンビドロ支部設立功勞者 ドクター

伊藤 竹次郎



明治十一年千葉縣木更津に生る。年齢漸く十九歳にして濟生學舎を出で、醫術開業試験に及第せる逸材なり。明治廿一年洋々たる希望を抱いて渡米し、北加に於て邦人最初の病院に主醫となり、續いて自ら醫院を開業せり。明治三十七年(一九〇四年)南加州ロスアンゼルスに轉じて開院以來、邦人刀圭界に於ける最古參なり。一九二六年サンビドロ港に於

て醫院開業中、偶々剣道熱が勃興するや、二世の精神修養と剣道の絶対必極なることを力説し自ら進んで同志を語り師範藤井登六の強権となりて、遂に一九二七年サンビドロ剣道部を設立し、醫業多端なる物とせず、推されて前後三ヶ年間後援會長となり、サンビドロ支部今日の隆盛を見るに至つた堅き基礎を築ける第一の功勞者なり。今や彼はテハチペ山麓のバサデナ市に轉じて、悠々自適の生活に入るも、彼の生涯は實に男性的の三字に終始し、仁俠ある仁術家として世に謳はる。曾つては第一次南加中央日本人會長、羅府日本人會長、羅府第一學園長、常盤俱樂部々長、千葉縣人會長、相撲協會々頭の公職に推され善く社會公共の爲め盡力せること枚舉に遑なし。妻爲子との仲に三男四女あり、家庭的には極めて恵まれ居れり。(355 Morengo Ave, Pasadena, Calif.)

サンビドロ支部設立功勞者 故 竹内乙藏



地サンビドロの名物男と日米人間に知られたり。

明治九年、三重縣志摩郡片田村に生れ、同三十三年(一九〇〇年)渡米。一時南加里バサイドにて商業に従事せるも、一九二〇年サンビドロに移住漁業の傍ら、商店をも經營。同地剣道支部設立に際し、ドクトル伊藤等と協力して盡瘁する所深く、功勞者の一人として擧げらる。一九三三年一月十七日、不幸病ひを得て死亡し、妻ヤスとの仲に庄兵衛、誠の二子を殘せり。生前日本人會、學園父兄會、相撲部等の公共に盡すこと多大にて、漁業

サンビドロ支部設立功勞者 南加聯盟總師範 劍道五段 練士 藤井登六



明治廿九年四月三日、和歌山縣西牟婁郡江住村の海濱に呱聲を擧げ、和歌山縣立田邊中學校在學當時より、武士道精神と國民性道德の二體一元なるを覺り、剣道の練磨に精進し中學卒業後東京齒科醫學專門學校に在學中も、只管ラス道の練磨に努め、大正十年七月三十日同校を卒業して齒科醫學士の學位獲得。大正十二年十月廿八日、斯業勉學視察の目的を以て渡米桑港上陸、直ちに南加州サンビドロ港に在留せる、同縣出身の知友を訪ね、

之れが縁となりて同地に止どまり、齒科醫院を開業今日に至る。當時同地に於ける一般青少年等の禮儀作法は、眞く眉を擧めしむる處ある點より、彼は奮然起つて同志を語り、昭和三年(一九二八年)同地青年會内に劍道部を新設し、二世青少年子女の精神陶冶と、體育獎勵の爲め献身的努力を拂ひ、漸く今日の端を開けり。越へて翌一九二九年、朝鮮武徳館長中村藤吉教士一行がロスアンゼルスに來るや、直ちに同志と謀りて之れを迎へ劍道の講習を開き、一般在留民の劍道に關する知識を博め、多數の若き劍士を養成し、始めて今日を約束せしめり。昭和九年(一九三四年)短期歸朝し、京都武徳殿に於ける劍道大會に出場し、多年練磨研鑽の技術を現して美事練士號を獲得、昭和十二年(一九三七年)五月廿六日、大日本武徳會より五段を允許さる。同年北米武徳會教士中村藤吉歸國するや、同教士の留守中代理の要職に推され、更らに亦、來米滞在中の森寅雄練士に就きて劍を學び、一日として『劍道』の念を放したることなき熱心さには父兄感服せり。妻光代(一九一〇年生)との仲に子なし。(230 Terminal Way, Terminal Island, Calif.)

サンビドロ支部功勞者 二段 藤井太四郎

明治三十年『申本節』に名高き和歌山縣西牟婁郡申本町に生る。大正十一年渡米し、南加州サンビドロ港に至り、漁業



に精勵すること十一年に及ぶ。其間同地に於ける剣道部設立に際し、同志藤井登六の鐵槓となつて、之れが實現に貢獻する處多大なるものあり、彼の助力功を奏して今日同支部の隆盛を見るに至れり。昭和八年（一九三三年）アメリカ生活を切り上げて歸國し、目下大阪砲兵工廠に奉職せり。（大阪市旭區永田町）

南加聯盟會々長 サンビドロ支部顧問 橋本 數市



明治廿二年、和歌山縣海草郡東山東村に呱呱を擧ぐ。少年期頃より遠く海外に雄飛の志望を抱き、機會の來るを待望の折柄、遂に明治三十九年（一九〇六年）その願望を達して、若冠僅か十七歳を以て單身渡米し、直ちに現住所に馳けつけるや、海の猛者に混つて漁業に従事すること多年、善く勤儉己れを持して他日あるを期し、若者の陥り易き誘惑を避けて刻苦精勵せり。其後海の荒業より商業に轉ずるや縦横の奇才を巧みに發揮し、急速なる發展擴張を遂げて今日、米人商會を凌駕する金物店を經營現在に至る。

資性沈黙寡言、黙々として語らざる裡に能く他人の世話や、公共團體事業に身を擲ち、決して之れを世人に語らず誇らず、殊に同地に剣道々場の開設さるるに當つては、第二世の剣道精神化を覺り、主唱者藤井登六、藤井太四郎、ドクトル伊藤竹次郎、竹内乙藏等を助けて、之れが實現に多大な盡力を拂へり。而して剣道支部が設立されるや、業務繁多にも拘らず、數年其の重要な席につき、また一九三四年、北米武德會南加聯盟の創立を見るや、推されて會長の公職に就く

こと茲に四十年に及ぶ。

彼は今や、北米武德會の最古最大なる聯盟の會長たる外、サンビドロ日本人會長、サンビドロ公立學校父兄會副會長、曹谿學園會々々長、光泰寺後援會々々長、南加和歌山縣人會々々長、米國高野山地方理事等々の社會公共團體の重鎮として、善くその任を全ふせり。妻カトエとの仲に長男一次、二男光男を儲け、兩兒共に日本に遊學せしめ、縣立海草中學に勉學中なり。北米武德會の今日ある所以も、彼の如き人物の存在せるに依る所多く、一般父兄もまた彼の公私なき盡力を大に多とせり。（757 Tuna St. Terminal Island, Calif.）

南加聯盟顧問 サンビドロ支部顧問 戸間 鶴松



西南役の前年たる明治九年、和歌山縣東牟婁郡太地町に生る。壯年期の三十歳にして米大陸に渡りオーkland上陸、直ちに北米シヤトルに移住商業に従事すること滿五十年に及ぶも、鬱勃たる野心は彼を馳つて、ユタ州を中心に山中部各地の商況視察をなさしめ大に得る處あり、大正四年（一九一五年）更らにサンビドロに轉じて商舖を開き、食料雜貨戸間商店を經營。資性温厚にして然も圓轉滑脫、一面また紀州人の特有たる仁俠に富む處から、初老期より『小父』と敬稱され、商賣大に殷盛を極めり。昭和七年（一九三二年）長男壽美一に店舖を譲り、今や樂隱居の身となつて悠々たる生活に入るも、彼の在米後半生は極めて破瀾に富む人生の持主なり。

大正十年（一九二一年）頃より、同地に剣道熱が擡頭するや、彼また其の助産婦役となつて之れが實現を圖り、一屈一伸一馳一張毎に善く面倒を見て、遂に今日の成果を齎らしめたる功勞者にして、一九三四年桑港に於て開催されたる北米

武徳會第一回、全米剣道大會には衆望を荷つて總委員長に推され、更に一九三七年の大會には、同會より其の功勞を表彰されり。彼は剣道に盡瘁するばかりでなく、同胞社會の各團體に重要な位置を占めて活動し、曾つて彼が關係せる團體關係を列擧すれば、サンビドロ商業組合前會長、本地人會前會長、日本人會相談役、公立學校父兄會々長、漁業組合前理事、市民協會相談役、南加和歌山縣人會地方理事、大師教會地方理事、曹谿學園後援會々々長等枚擧に違なし。妻は日本に於て死亡し、夫婦の仲に長男壽美一（戸間商店經營）長女若代（在日本に嫁ぐ）次男柳平（羅府に於て商店經營）の二男一女あり、多數の孫を抱いて一家黨々たり。（603 Tuna St, Terminal Island, Calif）

サンビドロ支部顧問 原 乙 滋



明治二十年、山口縣玖珂郡柳井町に生る。年齒漸く十七歳の若冠を以て海外雄飛を念じ、同三十七年三月、鵬程四千哩を渡つて桑港に上陸するや、活動の要素は語學にあるを覺り、先づスクールボーイとなりて熱心に語學を學ぶ。大正四年四月（一九一五年）現任地に轉じ、北米鮭罐詰會社を創立して自ら重役となり、同胞共存共營の爲め活動すること三千年、其後サンビドロ・パッキング會社に勤務、同會社がインタナショナルと改稱

されて、バンキヤンプ會社に併合するや、大正十二年（一九二三年）サウザン罐詰會社に轉勤爾來今日に及ぶ。資性極めて重厚、難に當つて犀利の觀察力を能く持ち、事業家たるの資格満點なる處より、拔擢されて同會社事業部主任の要職にあり。妻己美子との仲に長男巖（在學）次男壽男（ハイ在學）僖佚（ハイ在學）の三男を有し、剣道に精進せしめり。剣道支部創立に盡す外、公共團體に汎く盡瘁し、サンビドロ日本人會々々長たること數回、南加中央日本人會副會頭、サ

ンビドロ公立學校父兄會々々長數回、青年會前會長、現サンビドロ日會顧問たり。（622 S Seaside St Terminal, Calif）

サンビドロ支部設立功勞者、理事 三 尾 善 松



明治十六年、和歌山縣西牟婁郡和深村に生る。同三十二年四月四日、數へ十六歳の少年期に早くも渡米し、英領バンクーバーに上陸、勇敢にも單身山中部に乗り込み、ソートレ一キ市に足を止めて、先づ語學を勉強する傍ら商業に従事すること拾ヶ年に及ぶ。其後桑港に出で、米國海軍々艦に料理人となりて搭乗し、大正三年（一九一四年）現任地に移りて漁業に轉じ、大正十五年（一九二六年）同島商業の中心地に洋食店を開業し、更らにまた隣接の角家を買收して、酒店及び洋食店を新に經營し、今や目抜き場所に二軒の店を張り非常な盛況を呈せり。

資性豪快不屈、紀州人獨有の押しを有し、事に處して屈する處を知らぬ突進力を多分に持ち、今日の富と名を爲して居るが、其の裏面にはまた、妻織江の隠れたる内助の功あり。夫婦の仲に長男讓治、長女美恵、二女房恵、三女京の一男三女を有し、家庭頗る圓滿なり。同地に剣道熱が勃興するや、深く之れに興味を持ち、當時、僅か六歳の幼兒たりし長男讓治を、中村藤吉教士の門に入れて、重き竹刀を握らせ劍を學ばしめり。之れが抑、北米武徳會一萬劍士の卵となり、今日の隆盛を見るに至つた動機を作れり。北米武徳會の爲め、献身的に盡す傍ら、日會參事員、和深村人會々々長、曹谿學園會計監査等の公職をも勤めて會の爲め盡瘁する所多し。（777 Tuna St. Terminal, Island, Calif）

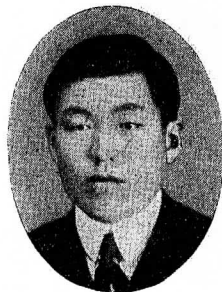
サンビドロ支部顧問 中 地 嘉 七



和歌山縣東牟婁郡古座町に、明治十四年生る。同三十五年六月シヤトルに上陸し、直ちに加州北沿岸のワツソソビルに來りて農等に從事し、其後南加に轉じて農業を経營せるも大正二年（一九一三年）モンテレーに移住して漁業に轉身し、大正十一年（一九二二年）現住地に移轉して、漁業に従事今日に至る。

同地に劍道々場の創設される頃より、身を挺して其の發展に盡瘁し、今日支部顧問に推舉さる。其他日本人會理事、公立學校父兄會理事、曹谿學園理事等の公共團體にも多く盡せり。妻フシとの間に長男嘉夫（南加大學卒業齒科醫學士にして現在同地にて開業）二男茂（ハイスクール卒業、漁業家）の二男を有し、物的にもまた恵まれ居れり。（625 Tuna St, Terminal Island, Calif.）

サンビドロ支部會長 河内幸次郎



明治十六年和歌山縣有田郡栖川村に生る。年齒漸く十七歳の時、即ち明治三十三年（一九〇〇年）單身渡米し、北米シヤトルに上陸。同地に足を止めて、語學を學び、又は商業に従事すること二十ヶ年後、一九一三年現住地に移り、漁業に轉身して今日に至る。温厚篤實なる資性は纏て認められ、北米武德會サンビドロ支部會長の外、サンビドロ日本人會副會長、公立學校父兄會理事、聖書學園後援會長、漁業組合前會長等にも選舉され、同胞公共團體事業に盡す所多し、妻イワエとの仲に長男幸男、二男博、三男丈兒、四男一夫、五男嘉弘五人の男兒を有し、皆な劍道を精進せしむ。（217-C Canery St, Terminal Island, Calif.）

サンビドロ支部會計監査 勳七等功七級 泉 一



西郷擧兵の歲明治十年、和歌山縣東牟婁郡古座町に生る。同三十七年日露の國交破裂するや召集に應じて渡滿、征露の戦線に立つて奮戦し勳七等功七級を拜授す、日露戦役終了後、明治三十九年四月渡米し桑港上陸、直ちに南加州オレンヂ郡に至り、農業に従事すること拾數年に及ぶ。其後現住地に移住して漁業に轉身し、間もなく食料雜貨店を獨力經營今日に至る。

資性極めて温厚健實、また依義に富みて能く他人の世話をなし、日本軍人の範を示せり。劍道支部設立前後より貢獻する所多く、長男敏郎を他に卒先して劍道の門に入れ、殆んど十年引き續いて會の爲めに働き、前支部會長にもつき、他面にはサンビドロ日本人會副會長、公立學校父兄會監査役、和歌山縣人會理事、聖書學園會計監査、在郷軍人團第八分隊長等の公職にあり、妻フミまた内助の功あり、夫婦の仲に長男敏郎（劍道三段商業家）二男克巳、長女周子（ハイ卒業商業に従事）二女五月（ハイ在學）三女メリー（ハイ在學）の二男三女を儲け家庭頗る朗らかなり。

(187 Terminal Way, Terminal Island, Calif.)

サンビドロ支部副會長 勳七等 濱口平三郎

三重縣志摩郡片田村に明治十五年生る。同三十七年、露西亞膺懲の戦端開かれるや、第二軍に従軍して、斯の有名人なる南山攻撃より遼陽の激戦に轉戦中、貫通銃瘡を受けるの軍功ありて、勳七等白色銅葉章を拜授。明治四十年八月渡米桑港



米せしめて、現在コロラド州デンバー大學に政治經濟學を學びしむ。(158 Terminal Way, Terminal Island, Calif.)

サンピドロ支部會計 畑下帝三



に盡せり。妻澤との仲に昭子あり。(730 Tuna St. Terminal Island, Calif.)

サンピドロ支部會計 漁野大兵衛

明治廿九年、和歌山縣東牟婁郡大地町に生る。大正二年十二月渡米、桑港上陸、父業を繼ぐ可くサンピドロに來り、爾

に上陸し、爾來南加の現住地に在留して今日、漁船ミコー丸を獨力所有し船長となる。

資性轄達剛健、日露大戰の荒武者を髣髴せしめ、また情義に厚く、能く後輩を指導し面倒を見る。同地に劍道々場の創設されるや、同志を援けて今日あらしめる外、日本人會水産部々長、曹谿學園理事、佛教會理事、漁業組合前理事の公職にも歴任し、社會公共の爲めに盡瘁する所多し。妻ステノとの仲に廣政の一粒種を儲け、早稻田大學法科卒業後歸

明治廿六年、和歌山縣東牟婁郡下里町に生る。大正七年渡米、桑港上陸後直ちにサンピ

ドロ港に來り、太平洋漁業市場内の、セントラル魚市場に精動すること約十三年、忠實なる店員たるの範を示せり。一九三六年二月より現住所に球場を經營し、健實なる歩を進めつ、今日に至る。同地劍道部設立に際して貢献する所多く、現在會計の要職に推されるの外、サンピドロ日本人會幹部、熊野愛友會々長、公立學校父兄會理事等をも兼任して公共



Terminal Island, Calif.)

サンピドロ支部幹事 平賀重昌



來十五年間漁業に従事し、昭和三年(一九二八年)商業に轉身して洋食店を開店今日に至る。劍道に深き趣味を持ち、同地に劍道部設立されるや、直ちに長男恭一を入門せしめて大に之れを奨勵せり。現在會計たるの外、日本人會參事員、公立學校父兄會會計、佛教會監查等にも當選。妻八千代との間に恭一、輝男、君代の二男一女を擧ぐ。(701 Tuna St., Terminal Island, Calif.)

サンピドロ支部理事 吉田徳一

明治卅三年、和歌山縣新宮市三輪崎町に生る。大正九年(一九二〇年)新宮中學校卒業後同年四月渡米桑港上陸、直ちに南加に來りてロスアンゼルス・ハイスクールに學びて之れを卒業し、一九二二年サンピドロに轉じて漁業に従事今日に至る。新宮中學校在學中より劍道を修練せる處より、支部設立と同時に藤井師範の善き後楯となつて盡力せり。妻園枝との

仲にリリー、興、孝夫の二男一女ありて家庭頗る圓滿なり。(143-B Cannery St., Terminal Island, Calif)

サンビドロ支部理事 寺田良太郎



明治十四年、和歌山縣日高郡比井崎村に生る。歳齒漸く十九歳の年、明治三十三年六月渡米、英領バンクーバーに上陸、同地に一ケ年滞在後、翌三十四年米國に轉じ、爾來サンビドロに在留、漁業に従事し今日に至る。劍道支部設立當時より貢献する所多く、妻マサとの仲に良一(漁業家)良治(二段)政子の二男一女あり。
(117-C Cannery St., Terminal Island, Cal)

サンビドロ支部理事 江戸金太郎



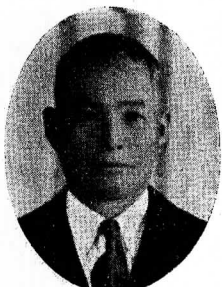
兼任し、公共事業に多大な貢献をなせり。妻トクとの仲に長男太郎、啓次、田鶴子、萬里子の二男二女あり。
(743 Tuna St., Terminal Island, Cal)

サンビドロ支部理事 入江孝四郎



和歌山縣東牟婁郡勝浦町に、明治十七年生る。明治三十二年、僅か十五歳の若冠を以て渡米し、英領加奈侖バンクーバーに上陸、西北部シヤトルに於て商業に従事すること永年に及び、其後一九二七年サンビドロ港に移り、爾來商業に従事して今日に至る。同地に劍道部設立される前後より、能く其の實現と發展に盡瘁する所多大なるものあり、妻ミユキとの仲に孝、孝治の二男あり、皆な劍道を修練せしめり。
(771 Tuna St., Terminal Island, Cal)

サンビドロ支部理事 前田彌吉



明治十五年、和歌山縣西牟婁郡江住村に生る、明治三十二年海外發展の雄志に馳られて英領加奈侖バンクーバーに上陸、夫れより米國に轉じシヤトルに於て商業に従事し、大正六年(一九一七年)サンビドロに移つて漁業に轉身し今日に至り、漁船ウラナス丸を所有す。妻ハツとの仲に賢一、友彦、章次、富美子、富子、美彌子、友枝、節美の三男五女を有し、家庭的にも大に恵まれり。劍道支部理事、江住村人會々長に選ばれて、公共に盡せり。(630 S, Seaside Ave, Terminal Island, Cal)

サンビドロ支部理事 奥山與一郎



明治十四年、太平洋上の孤島とも謂ふ可き東京府下八丈島、大賀郷に生る。明治三十九年（一九〇六年）廿五歳の壯年期に渡米、桑港に上陸し、直ちに南加州ロスアンゼルスに轉じて商業に従事し、又は沿岸サンタババラ市に美術雜貨店をも經營したる事あり、後、羅府朝日新聞社に在勤せるも、遠大なる野心に燃ゆる彼の性質に合はず大正七年（一九一八年）サンビドロに轉じて、フランク・イタリアン雜誌會社の創設に畢生の努力を拂ひ、今日同社の躍進的發展の基礎を作り、爾來二十二年間孜孜として會社に献身し、日本人部の代表的重要な位置に就き、傍ら在留同胞社會の公共團體に盡瘁せり。劍道支部設立に貢献するの外、前南加日本人會副會長、前サンビドロ日本人會々長、同現顧問等の榮職に就けり。妻リユ子との仲に子なく、一家淋しき裡にも夫婦圓滿なり。（228 Cannery St, Terminal Island, Cal）

サンビドロ支部理事 戸間壽美一

明治廿九年、戸間鶴松の長男として、和歌山縣東牟婁郡太地町に生る。明治四十三年（一九一〇年）年齢漸く十四歳の時、當時在米の父に招かれて渡米シヤトルに上陸、同地に父と共に商業に従事したるも、父鶴松南加サンビドロに轉住するに従ひ、彼も同地に轉じて滿十五年間漁業に従事し、一九三二年父業を繼いで商業に轉身今日に及べり。妻千恵野との仲に誠哉、英夫、務、喜美子、メリ子の三男二女の理想的子持ちにして、三男共に劍道に精進せしめり。（603 Tuna St, Terminal Island, Cal）

サンビドロ支部理事 鈴木與平



東海道中の絶景地たる、静岡縣清水郡三保町に、明治三十一年生る。大正四年（一九一五年）單身渡米シヤトルに上陸し、山中部ユタ州に入りて農業に従事中、實弟政藏を招きて共に精勵せるも、一九二〇年實弟を伴れてサンビドロに來り漁業に轉身し、漁船ナンシハンクス丸を實弟政藏と共同所有し現在に至る。劍道支部設立以來盡瘁する處深く、また日本人會參事員、漁業組合會計、公立學校父兄會理事、静岡産業協會々計、光泰曹給學園（225-C Cannery St, Terminal Island, Cal）

サンビドロ支部理事 鈴木政藏

明治三十三年、静岡縣清水郡三保町に生る。大正五年（一九一六年）年齢漸く十六歳の若冠を以て渡米シヤトルに上陸、直ちに山中部ユタ州に入りて農業に従事せるも、其後一九二〇年サンビドロに移轉漁業に従事し今日に至り、漁船ナンシハンクス丸を實兄與平と共同所有す。妻ヨネとの間に郁、晃夫、和子の二男一女を儲け、静岡産業協會理事、光泰曹給後援會理事等の團體に盡せり。（229-A Cannery St, Terminal Island, Cal）





サンビドロ支部理事 清水 寅市

和歌山縣新宮市に明治十九年生る。明治卅八年十二月布哇に渡航し、翌卅九年一月大陸に轉航し桑港上陸、直ちに南加州に來りて農業に従事すること拾數年後、大正六年(一九一七年)十二月現住地に移つて漁業に轉身し今日に至る。劍道に深き趣味と理解を持ち、道場設立當初より長男元一郎を入門せしめ、今日猶貢獻する所多し。妻壽美枝との仲に元一郎、丈兒、亨、進、壽惠(ハイスクール卒業後渡日、女學校在學)の四男一女を有す。
(151-D Cannery St, Terminal Island, Cal)

サンビドロ支部理事 橋本 良吉



雄、三男辰次、四男久雄、長女光子、二女祿代の四男二女あり、男子は皆な劍道を修業せしむ。

明治十二年、和歌山縣日高郡比井崎村に生る。同三十三年僅か十七歳の年單身渡米し、英領ビクトリアに上陸、二年後の三十五年(一九〇二年)桑港に轉じ、沿岸各地に於て農業に従事、其後サンルイスオビスポ附近のカヨカス海邊に移りて鮑魚捕獲業に従事すると拾三ヶ年に及ぶ。大正三年(一九一四年)サンビドロに移轉漁業に従事し、今日漁船ウブユ丸船長となる。妻小祿と共に劍道を理解し長男辰一(在日本、水産學校在學)二男由(107-D Cannery St, Terminal Island, Cal)



サンビドロ支部理事 山本 佐七

して盡す傍ら、市民協會相談役、公立學校父兄會理事、曹給學園理事、日本人會理事、フイツシユマン組合日本人部理事等の團體に關係し能く社會公共の爲め貢獻せり。(P. O. Box 235 Terminal Island, Cal)



サンビドロ支部理事 清水 清一

山口縣玖珂郡和木村に原籍を有する父、清水順一の長男として、明治三十四年、米領布哇オアフ島アイエア耕地に生る。一九一九年布哇ミールズ大學卒業後渡米し、ミゾリー州カンサス市のスキニー自動車學校に入學卒業後加州サンデーゴに轉じ、農業組合創設に盡力せり。一九二八年サンビドロに移り、漁船々長となり今日に至る。妻静子もまた布哇生れにて大に内助の功あり、兩人の仲に長男馨、二男清の第三世二人あり、劍道支部理事として盡す傍ら、市民協會相談役、公立學校父兄會理事、曹給學園理事、日本人會理事、フイツシユマン組合日本人部理事等の團體に關係し能く社會公共の爲め貢獻せり。(230 Terminal Way, Terminal Island, Calif)



段三士劍

林文吉

一九一五年六月廿五日、林勝市の次男としてターミナル島に生れ、同地のグラマスクークよりハイスケールに進み、卒業後直ちに家業の漁業に従事す。支部設立當初より入門、熱心に修業し、一九三一年、弱冠十六歳にして、北米武徳會最初の有段者(初段)となり、更に昭和十一年五月、三段を允許する、現在二世漁業家として、將來大いに囑望する。(230 Terminal Way, Terminal Cal)



段三士劍

藤井章奇

明治四十四年五月二十一日和歌山縣西牟婁郡江住村に生る。十二歳の時呼寄せて渡米。ハリウドハイスケール卒業後商業に従事、現在二軒の店舗を構へて手堅く營業す。劍道は一九三〇年叔父藤井登六の門下となり熱心に修業、七年の努力空しからず一九三七年十月二十五日、三段を允許する。有段者會設立當初會長として斯道の向上に努めし事あり。(250 Wall St, Los Angeles, Cal)



段三士劍

中西茂

一九一三年一月一日中西久吉の長男として加州カンプトンに生る。幼児實父の郷里三重縣松坂商業學校を卒業、直に歸米ガデーナハイスケール及びウツドバレー大學に修業し後商業に従事して現在に至る。一九三二年藤井の門下となり劍道修業、研鑽の功著しく一九三七年十月二十五日三段に進む。現在南加聯盟有段者會々長として斯道に盡瘁す。(230 Terminal Way, Terminal Island Calif)



段三士劍

山本博

一九一七年サンビドロに生る。グラマスケール及びハイスケール卒業、一九三七年一月十一日渡日、日本大學に入學して現在に至る。一九二八年支部創立以來修業、一九三六年十月三段を允許する。北米武徳會全米大會に於て三ヶ年間全勝の記録を作りし事あり。山本佐七長男にして次弟喬と共に日本にあり、現在日本大學在學、野球選手として名あり。



段三士劍

泉敏郎

加州オレンヂ市に於て一九一八年五月七日生る。グラマスケール、ハイスケールを経て一九三五年ジュニア大學に入學、後中途退學して家業に従事し今日に至る。支部創立當時より入門、爾來十ヶ年間精進し師範藤井登六の愛弟子として囑望され一九三七年十月三段の允許を受く。現在南加聯盟有段者會副會長として斯道に献身す。現在商業に従事せり。(187 Terminal Way, Terminal, Calif)



段二士劍

池田文淵

原籍靜岡縣志太郡岡部町に、明治三十四年生る。一九二八年十月曹洞宗布教師として渡米、最初羅府在任、一九三一年サンビドロに轉じ布教と兒童教育に献身し、一九三四年太平山光泰寺創始及曹谿學園創立、別にドミンクスヒール劍道部創始者ともなり、日本劍道の普及と、武士道精神の發揚とに盡せること多し。妻サヨとの仲に美妻子ありて、一家圓滿なり。

(174 Albicore St, Terminal Calif)



段二士劍

井田長夫

一九一五年七月十日、井田菊二郎の長男としてロングビーチに生る。幼にして日本に到り三重縣立水産學校に入學。一九三一年歸米、サンビドロのハイスクール卒業後商業に従事し現在に至る。同年支部入門、一九三六年五月三十日二段を允許する。(707 Tuna St, Terminal Island, Calif)



段二士劍

中地茂

一九一六年十二月十日、中地嘉七の次男としてモントレーに生る。グラマスクールよりハイスクールに進み、卒業後直に漁業に従事し、二世漁業家の先驅者となりて後進者の道を拓けり。支部創立と同時に入門、昭和十一年五月三十日二段を允許する。(625 Tuna St, Terminal Island, Calif)

(76)



段二士劍

浅利利時

一九一七年六月二十四日浅利四郎吉の長男としてターミナル島に生る。一九三六年十九歳の時ハイスクール卒業、現在漁業に従事し、父業を助けつゝ二世漁業家たるの範を示せり。支部創立當初よりの入門者にして、昭和十一年五月三十日二段の允許を受く。(230 Terminal Way, Terminal Island, Calif)



段二士劍

橋本辰一

橋本良吉の長男、一九一七年九月サンビドロ市に生る。ハイスクール卒業後一九三六年渡日、現在静岡縣立水産學校に在學、支部創立當初より劍道に精進し昭和十一年五月三十日二段の允許を受く。水産學校卒業後は歸米し、父業を繼いで日本海産界に盡す意氣込みなり。(107-D Cannery St, Terminal Island, Calif)



段二士劍

寺田良治

一九一八年十月五日寺田良太郎の二男として加州ロスアンゼルス市に生る。グラマスクールよりハイスクールに進み、一九三八年卒業。支部創立當初より入門し、爾來十ヶ年間熱心に武道に精進し、支部劍士の範となれり。一九三七年十月二十五日二段を允許する。(117-D Cannery St, Terminal Island, Calif)

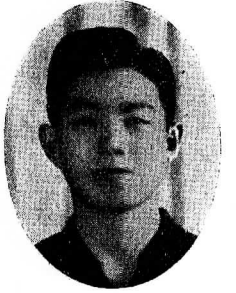
(77)



段二士劍

橋本由雄

二段橋本辰一の次弟、一九一九年二月生れ。一九三八年六月ハイスクール卒業、劍道部創立當初より入門し、幼年部選手として大いに活躍、一九三七年十月廿五日、十八才にして二段の允許を受け、支部の中堅劍士として未來を囑望する。現在は南加聯盟有段者會の幹事なり。(107-D Cannery St, Terminal Island, Calif)



段二士劍
清水一元郎

一九二〇年九月一日、清水寅市の長男としてロスアンゼルス市に生る。グラマ
スクールをサンビドロに學び、更にハイスクールに進み現在在學中。支部創
立と同時に入門、爾來十ヶ年間修練し其の効ありて技術大に進境を示し、一九
三七年十月廿五日二段を允許する。(151-D Cannery St, Terminal Island, Calif)



段初士劍
竹内誠

一九一五年、故竹内乙藏の次男としてターミナルに生る。グラマスクールより
ハイスクールに進み、南加大學藥學部卒業、既に藥劑師たるも尙斯道の研究に
いそしみつゝあり。支部創立當初入門よく精進し、一九三二年十月廿九日初段
を允許する。(756 1/2 Tuna St, Terminal Island, Calif)



段初士劍
上田英男

上田元太郎長男、一九一九年十二月十四日サンビドロ市に生る。一九三八年二
月ハイスクール卒業、現在カンプトン大學在學中、支部設立後に入門し、熱心
に修練せる甲斐ありて、一九三七年十月二十五日に初段の允許を受く。
(233-A Cannery St, Terminal Island, Calif)



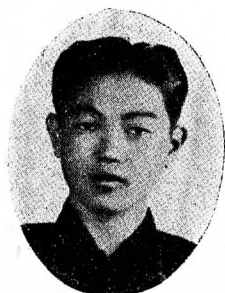
段初士劍
原巖

一九一九年四月二十八日、原乙滋の長男としてターミナルに生る。グラマスク
ールよりハイスクールに進み、カンプトンのジュニア大學に入學、經濟を專攻
しつゝ、現在に至る。支部創立當時入門、研學修道、俱に忘らず、昭和十一年五
月三十日初段允許を受く。(622 S, Seaside St, Terminal Island, Calif)



段初士劍
江戸太郎

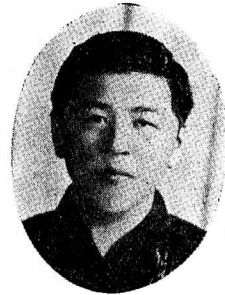
江戸金太郎長男、一九一九年七月十二日サンビドロ市に生る。目下ハイスク
ール在學。支部創立當時より入門。不斷の努力を以て精進修練すること拾ヶ年
昭和十一年五月三十日初段を允許する。南加聯盟有段者會の會計を勤めし事あ
り。將來大に囑望さるる藤井鍊士の愛弟子なり。
(743 Tuna St, Terminal Island, Calif)



段初士劍
三尾讓治

三尾讓治は弱冠廿に充たぬ少年劍士乍ら北米武徳會最古參の入門生として同
好の間に普く知らる。一九二二年十月九日三尾善松の長男としてサンビドロ市
に呱々の聲をあぐ。一九二九年中村教士渡米の際最初の幼年劍士として入門せ
るが、當時僅か六才の幼童で、竹刀も満足に扱へない稽古姿は洵に可憐なもの
なりき。而もこの幼童の微笑まじき劍道修業が圖らずも中村教士をして今日の

大をなさしめた我が北米武徳會の礎石となれり。その意味からすれば此の少年劍士こそ北米武徳會創設のバイオニアと云ふべきなり。爾來十年間不斷の修練を續け一九三七年十月二十五日初段允許の榮譽を獲得せるが、彼の將來は更に各方面より囑望されつゝあり。目下ハイスクールに於て勉學中。(777 Tuna St, Terminal Island, Calif)



段初士劍

一恭野漁

漁野大兵衛長男一九二二年十二月六日サンビードロに生る。グラマスクールよりハイスクールに進み、現在勉學中。一九三一年支部入門、その後六ヶ年の修練を経て一九三七年十月二十五日初段を允許する。將來ある藤井門下の劍士として名あり。(701 Tuna St, Terminal Island, Calif)



段初士劍

潔田石

石田兵助長男、一九二二年六月十九日アイダホ州デクロ市に生る。幼時より両親と共にサンビードロに移り、グラマスクールよりハイスクールに進み、現在勉學中。劍道の修練に熱心なること驚くばかりにて、藤井師範の愛弟子の一人なり。一九三八年六月二十日初段を允許する。(230 Terminal Way, Terminal Island, Calif)

第十章 ロングビーチ支部史

ロ市開發の概要

此の地名を邦字に當てて、長濱と書いて居る。英字のロングが長きであり、ビーチが濱である點から、ロングビーチ即ち長濱と稱び且つ書くに至つて居る。此の地はロスアンゼルスより南へ二十二哩、靜かな白砂の海岸に沿うた、人口約十八萬餘の油田都會である。氣候は四季を通じて溫和な好避暑地で、始めブルジョアの海濱住宅町として起り、一九〇五年頃には、人口僅かに二千餘に過ぎなかつたが、一九二一年、シゲナルヒルに油田が発見されてから、一躍油田の大激増を示し現在の産出量總計數千萬バレルに上り、市の主なる財源となると同時に、米國內屈指の油田地として人口に噴爰されて居る。

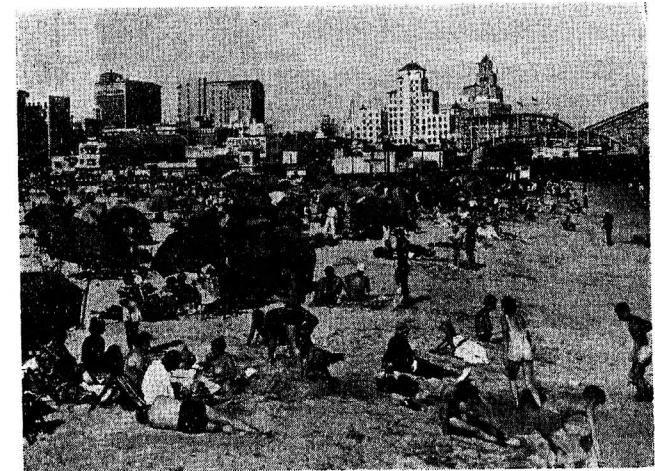


部一の市チービングロ

方面に於ては、鋼鐵工場、造船所、海軍灣水艦建造所等があり、生産工業としては、魚類罐詰工場が充分に備へてゐる。工業噸に及ぶ、因に市の主要産業は石油、造船、魚類罐詰製造の三種である。其他大小工場の數は三百五十餘に達し、尙急速

な勢を以て發展しつゝある 郊外農場ではセロリ、ライマビーンズその他の新鮮な蔬菜類を多量に産出する。
この地の發展は大ロスアンゼルス發展に伴つて起り、邦人も漁業方面に盛んに活躍しつゝある。

在留同胞の足跡



北海の砂白チービゲンロ

この地方に、最初日本人が足跡を印したのは、何時ごろであつたか？ いまだ正確なる記録はないが、南加各郡に散在する同胞移住の歴史を*
* 緋いて観ると今より三十八、九年前に加州北方より、同胞農家が徐々に南漸し、サンフランシスコ平原、バコイマ地方の開墾に始まつて居る。其の後一九〇六年、桑港大震災直後より、南加地方に多数同胞の増加を示すに従ひ、漸次此の地に同胞の數を見るに至つたものらしく、其の發展の歴史は、漁業方面より、遙かに數年古きものがある。同地在留邦人の發展も、一九二二年の油田發見後著しきものがあり、一、二の同胞は自己所有の農園より重油噴出し、夢想かもしれない成功を納めた者もあるが、總じて在留民は、之等一獲千金的な油田事業に手を染めず、健全なる農商産業に孜孜として活動し、現在では、日會、學園、其他五、六の團體、教會等を維持し、市内外に約八十軒の商店を経営、在留民も千を數へるの發展狀況を示して居る。

劍道支部設立の動機

當市農産市場内に、デジ洋食店を經營せる高知縣人江口道徳は、夙に第二世の精神教育上選擇すべき競技の點につき心を配る處があつた折柄、隣市サンビドロに於ける劍道支部劍士等の、特に秀いでたる日常の行狀を耳にして、大に感動するものがあり、當時同市よりサンビドロ劍道支部に通へる、古賀博志(現初段)の父、古賀又藏と相圖つて、一九三三年七月初旬、サンビドロ劍道支部師範藤井登六を招聘して、一夕、劍道の講演及び、デモンストレーションを舉行したが、來會者三十有餘名、何れも熱心に傾聴し、武士道と日本精神の相一致すること、並に次代青年と體育の必樞缺ぐ可からざることを看取した父兄等は、直ちに同夜より二十餘名の兒童を入門せしめて、劍道の講習を受けさせるに至つたのが端緒である。

師範藤井登六の熱心なる劍道講習後、之れが手ほどきを受けた青少年等の、その起居動作は勿論、父母上長に對する禮儀作法等、全く昔に變る急激な善化を示した處から、父兄等は大に乗り氣になり、大迫愛吉、前田金彌、遠藤辰三、川崎三之助、柵町虎造、二林好次、江口道徳、古賀又藏、東傳記、倉富岩見、尾形小三郎、川浪大藏、仲地榮助、着野龜吉等率先して、一九三三年七月廿四日、支部の設立を見るに至つた。會場は市内モリノ街一七四八番の邦語學園ホールを使用し、毎週水、金兩夜『エツヤツ』と掛聲勇しく、猛練習を開始したが、最初の入門子弟に刺戟されてか、支部設立と同時に男子四十數名の外、花朧つかしい女子も二十數名加入するの盛況を呈した。

飛んだナンセンス

支部設立より約十ヶ月目頃に至り、突如同地の英字新聞が「當地日本人學校では、米國に生を享けし日系市民をして、一旦緩急の場合、劍を取つて起つ可き軍事教練を爲しつゝあるが、之れは實に由々敷き陰謀なり」と、筆を極めて煽動的に書き立てた爲め、同胞社會では時ならぬ重大問題となり、直ちに事件の真相を調査すると、學園附近に棲む二三の白人狼狽者、毎週水、金兩夜の稽古を覗き見して、「これは大變だ!! 日本人が戦争の準備をして居る」と早合點して、當局に對し速時閉止するやう三十餘名の連署を取つて、市參事員會に請願書を提出したので、同會では直ちに、警察署長に内偵を命ずるに至つた事から、事大主義の英字紙が、大々的に報道したことが判明した。

英字紙の針小棒大な嘘報の爲め、在留日本人間にも種々な異論が續出し、結局、其の真相如何は別問題として、學校附近の白人住民等が、劍道を好まざることは明らかであるから、他に道場を移轉するがよからうと言ふことになり、差し詰め適當の場所がない爲め、或る時は家外の廣地で稽古をなし、また或る時は、野菜市場内のコンクリートの廣場を臨時使用したり、道場を轉々すること前後四回に及んだが、此の間、父兄等は聊かも悲鳴を擧げる者なく、精神物質の兩面に、多大な負擔を分かち合つて、壓迫來ることに之れを突破した。當時發行された羅府新報記事を参照せむ(一九三四年六月十三日)

誤解から排日ナンセンス

お面ツ、お小手ツ……を

軍事教練だと

長濱市參事會へ飛んだ陳情

真相判つてO、K、

第二世の擊劍稽古を軍事教練と誤解してロングビーチの排日騒ぎ——長濱日會では毎週水、金兩夜サンピードロから藤井師範を招きモリノ街一七四八學園ホールで同胞子弟に

嬢も二十三、四名、稽古着も大きく「オ面」胴ツ」と勇ましく「オ面」胴ツ」と竹刀の音をさせてゐるところ

内偵を命じロングビーチの英字紙も大々的に「米國に生れた日系市民にまで一旦緩急の際、戈をとつて起つべく軍事教練をなすつあり由々しき陰謀」を企らんとすると書立て警官が調査に来るなど大げさな問題になりかけたが

日會幹事神谷嘉榮氏が市長バーディック氏を訪れ「櫻祭りやお大會の餘興に出場した様に、この劍道なるものは心身の鍛練をなすもので決して戦争のためではない」と説明した結果、市長も諒解し遂に昨日O.Kとなり參事會は右請願を却下したと。

中村教士再度の講習

斯くて二ヶ年後の一九三六年、中村教士が再び南下して同地に再度の劍道講習を開始するに當り、男女五十餘名の青少年が勇んで講習を受けるに至り、愈々道場の必要に迫られた處から、二村、川崎、江口、着野、棚町、古賀、尾形、東、福田、倉富等慎重協議の結果、日本人會並に邦語學園父兄等に呼びかけて、學園と劍道場の建築の議を圖り、種々交渉を重ねて愈々これが實現を見るに至り、現在シグナルヒル丘陵に聳ゆる堂々たる學園内に、二百の劍士を包容し得る新道場を建設するに至つた。現在同支部より男子有段者五名、女子有段者五名を輩出し、四十有餘名の劍士等が、自己修養

の爲め剣道に精進しつゝある。

三八年度役員

會長	二村好次	理事	神谷嘉榮
副會長	棚町虎造	同	福田萬喜
會計	古賀又藏	同	倉富岩見
同	尾形小三郎	顧問	江口道徳
監査	東傳記	同	川崎三之助
同	岡村	總師範	藤井登六
專務理事	着野龜吉	師範兼幹事	柳澤友太郎

劍士有段者 二村輝雄、川崎保、東晴雄、棚町榮、古賀博志、棚町春子、二村春子、尾形清子、着野紀代子、淺和正子

ロングビーチ支部會長 二村好次

明治廿二年、愛媛縣西宇和郡川上村に生る、大正元年（一九一二年）廿五歳の壯年期に海外雄飛を思ひ立つて渡米しシアトル上陸。直ちに隣市タコマ市に入りて活動すること十年、一九二三年南加州の將來性あるを看破して轉住、ロングビーチ市に來り、養豚業に従事して今日の富を積み、一九三七年より南加州の首都ロスアンゼルス市南メイン街三二九番

に廣大なる酒店をも共營せり。



妻香代子また日本婦人の典型と稱され大に内助の功あり、兩人の仲に輝雄、要崇、稔、勉、春子、富士子の五男二女の理想の子福者にして、公共の爲め貢献する所深く、殊に剣道支部設立前後に當つては、精神、物質の兩面に多大な貢献をなし、今日支部の隆盛を齎せり。現剣道支部長の外、日本人會參事員、邦語學園副會長の榮職に推擧され、濃厚なる資性を以て夙に在留民平和の中心人物となつて、社會の爲め盡瘁せり。

(329 S. Main St., L. A. Calif.)

ロングビーチ支部顧問 江口道徳



ふじ善く彼に仕へ一家四人の家庭は頗る圓滿なり。(1388 Daisy Ave, L. B. Calif.)

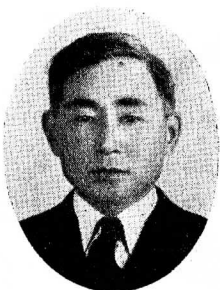
ロングビーチ支部顧問 川崎三之助

明治五年和歌山縣東牟婁郡田原村に生る。同三十三年渡米、南加州ロングビーチ市に移住以來、セロリ十五英町の農園



を經營今日に至る。一九三六年の春、在米三十七年振りに故山を訪れ、歸米の際中村教士同道にて海軍大將加藤寛治閣下をその居に訪れ、老將軍より親しき言葉を交され『死して悔なし』と歎ひ居れり。劍道支部設立の功勞者にして妻ふじとの仲に長男次平、保、道江の二男一女を擧げ一家圓滿。(Rt 1. Box 350, L. B. Calif.)

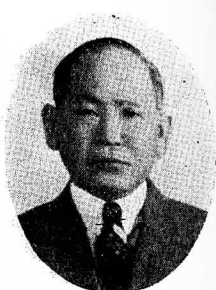
ロングビーチ支部副會長 棚町 虎造



明治二十三年、福岡縣三井郡立石村に生る。同三十九年十一月布哇に渡航し、翌月直ちに大陸轉航桑港に上陸。南加各地に轉住して農業に従事し一九一八年(大正七年)現住所に移り十五英町のセロリ農園を經營今日に至る。日本人會々計監査、日本語學園理事の公職にある傍ら特に劍道趣味深く支部設立前後より盡力多大なるものあり、現支部副會長に推薦されて會の發展に盡瘁せり。妻勝江との間に長男繁、春子、愛子の一男一女あり。(P. O. Box 63, Seal Beach, Cal.)

ロングビーチ支部會計 古賀 又藏

福岡縣三潞郡安武村に明治十七年生る。明治三十六年(一九〇三年)日露國交の將に決裂せんとする年渡米し桑港上陸、直ちに南加サンタポーラに至り農事に従事せるも、一九一二年意を翻して商業に轉じ現住所に移轉爾來今日に及ぶ。



同地劍道支部設立前より斯道に盡す所多く同志江口道徳と謀つて劍道奨勵に貢獻すること深く、現に同支部會計の榮職にあり。その他日本人會參事員、日本語學園會計監査をも兼職、妻みきとの仲に公彦、博志、賢次、惠美子、よし子の三男二女あり。(1017 E. 7th St. L. B. Cal.)

ロングビーチ支部會計 尾形 小三郎



明治二十九年、福岡縣三潞郡安武村に生る。大正六年十月渡米し桑港上陸、南加州ロングビーチに來り二十五英町のセロリ農園を經營し健實なる基礎を築き今日に至る。劍道の講習と共に愛兒を入門せしめて斯道に盡瘁すること多く現同支部會計としてその發展に盡す外、日本人會々計、日本語學園會計にも推舉されり。妻フサノとの間に長男照美(ハイススクール卒業)、長女清子、二男榮の二男一女を擧げ家庭頗る圓滿なり。(R. F. D. 1. Box 350, L. B. Calif.)

ロングビーチ支部會計監査 東 傳記



明治十三年、熊本縣上益城郡白糸村に生る。明治三十五年の春二十二歳にして遠く南米に渡り、同四十年メキシコ經由アメリカに轉航するや、南加ロスアンゼルスより現住所に來り、爾來三十一年間同地にありて農業に従事し、今日十五英町のセロリ園經營せり、妻

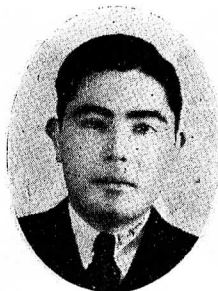
り。劍道支部會計の外、日本人會參事員、日本語學園理事等の公職にあり。(Rt 1, Box 2796, L. B. Cal.)

ロンゲビーチ支部専務理事 着野龜吉



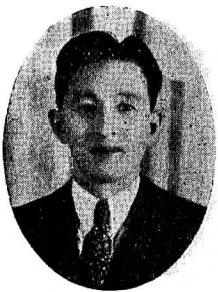
の榮職にあり。妻サカヨとの間に繁實、讓治、紀代子、博子、八重子の二男三女あり。(1823 Pine Ave, L. B. Cal.)

ロンゲビーチ支部理事 神谷嘉榮



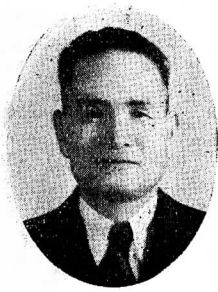
明治四十一年(一九〇八年)米領布哇に生る。幼時郷里に歸り沖繩縣立工業學校を卒業後布哇に渡り同地中醫師範科卒業。一九三〇年渡米ロスアンゼルスに上陸し、現住地の日本人會幹事兼、邦語學園教師を奉職する傍ら、ジュニア・カレヂに通學今日に及ぶ。一九三三年劍道支部創立以來斯道發達に盡力せり。妻和世子との仲にユリ子、榮一の一男一女を擧げ家庭極めて圓滿にして、在留民の信望また厚し。(P. O. Box 3026, Station B, L. B. Cal.)

ロンゲビーチ支部理事 福田萬喜



廣島縣廣島市西白島町を本籍に持つ彼は明治二十四年(一九〇一年)北米ワシントン州オーバン市に生る。幼時日本を訪れて高等小學を卒業後一九一五年歸米し、生地に於て牧畜事業に従事。一九三一年南加州に轉じ現住所に於て商業に轉業今日に及ぶ。商業組合會計の外、日本語學園理事、劍道支部理事等に選舉され、二世事業家として將來を望ま。妻マサ子との間に正登、玉喜、秀男、昭子の三男一女あり。(1754 Pine St, L. B. Calif.)

ロンゲビーチ支部理事 倉富岩美



明治十七年、福岡縣浮羽郡船越村に生る。同三十四年(一九〇一年)年齒漸く十七歳にして渡米、桑港に上陸、同地及びパロアルト地方に於て商業に従事し、一九二三年南加州ロンゲビーチに轉住商店を経営今日に至る。同地劍道支部設立當時より眞剣に應援々助して支部の今日ありしめ、其他日本語學園理事として公共に盡瘁する所多し、妻ツカヨとの仲頗る圓滿なり。(1427 W. State St, L. B. Cal.)



部支チービグンロ 段四 範師

郎太友澤柳

明治十年長野縣埴科郡坂城町に生る。明治四十年九月學生として渡米、爾來南加に移り現住所に在りて商業に従事し今日に至る。幼時より劍の道を好み僅か七才にして小野田伊織範士の門に入り神道無念流に就いて學ぶ。渡米後も更に熱心に斯道の研鑽を重ね、ロングビーチ支部設立以來文字通り一日の缺動もなく劍士の養成に盡瘁す。(800 Calif Ave, Long Beach, Calif.)



部支チービグンロ 段二 士劍

雄輝村二

一九二二年ワシントン州タコマ市に生れ幼時父母と共に南加に轉じ、ロングビーチ市の官立グラマスクールよりハイスクールを卒業し、現在大學に在學中である。同地に於ける劍道講習と共に入門し、斯道に理解ある父好次、母香代子の強い後楯を以て熱心に修業せる甲斐あつて一九三七年の全米劍道大會に於て少年主將の全勝を贏ち得、更らに沿岸三州武者修業の際も、九戦九勝の好成績を残せり。(329 S. Main St, L. A. Calif.)



部支チービグンロ 段二 士劍

子春町棚

一九二〇年五月一日、當支部副會長棚町虎造の長女としてロングビーチに生る。一九三八年六月、ハイスクール卒業。一九三七年十月廿五日二段を允許さる。武道日本の婦鑑として洵に頼母しき女流劍士の花形なり。(P. O. Box 63, Seal Beach, Calif.)



部支チービグンロ 段二 士劍

子春村二

一九一九年二月廿五日、愛媛縣出身二村好次の長女として長濱市に呱呱を擧げ、一九三七年同地ハイスクール卒業今日に至る。一九三三年七月、サンピドロ支部師範藤井登六が劍道の講習を開始するや直ちに入門して劍道に精進すること滿五ヶ年に及び一九三六年初段を允許され更らに二段に昇進す。劍道の教へによつて婦徳を積み父母に仕ゆること深く二世子女の模範となれり。(329 S. Main St, L. A. Calif.)



部支チービグンロ 段二 士劍

子代紀能着

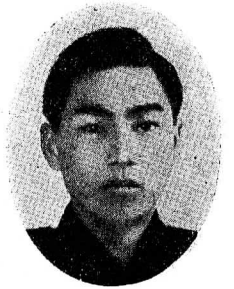
一九二一年、着能龜吉の長女として加州バサデナ市に生る。現在ロングビーチハイスクールに在學中。幼時より支部に入門、修練を積む事數年、技業抜群、一九三七年十月廿五日十六才にして二段を允許され、女流劍士の溢美と謳はれり。(1823 Pine Av. Long Beach, Calif.)



部支チービグンロ 段二 士劍

子清形尾

尾形小三郎の次女として一九二一年六月、加州ロングビーチ市に生る。一九三八年ハイスクール卒業。幼時より支部入門、ひたすら劍道に精進し、一九三七年十月廿五日二段の允許を受け、今猶熱心に斯道を修練しつゝ、後進を善く導けり。(R. F. D. 1, Box 350, Long Beach, Calif.)



部支チービゲンロ
段初 士劍

志博賀古

一九二二年二月七日、古賀又藏の次男としてロングビーチ市に生る。現在ハイスクール在學。一九三二年サンビードロ支部入門、其後ロングビーチ支部設立と同時に轉じ、一九三八年六月一日初段を允許さる。當市支部劍士中の古豪なり。(1017 E. 7th St. Long Beach, Calif.)



部支チービゲンロ
段初 士劍

雄晴東

一九二〇年四月十二日、東傳記長男としてロングビーチ市に生る。ハイスクール卒業。一九三三年支部創立以來劍道修業に志し、學業の傍、研鑽を積み一九三七年十月二十五日初段を允許さる。劍道に熱心なる父母の血を受け、彼また熱心なり。(Rt. 1. Box 2796, Long Beach, Calif.)



部支チービゲンロ
段初 士劍

子正和淺

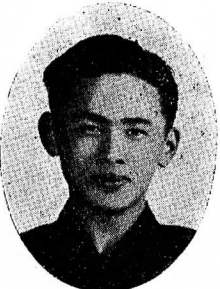
淺和午吉の長女として一九二〇年四月六日ノースオークに生る。現在ハイスクール在學。最初藤井師範の門下としてノースオーク劍道部に學び、一九三五年ロングビーチ支部に轉ず。同支部にて四ヶ年の修練を積み一九三七年十月二十五日初段允許を受く。(Rt. 2. Box 466 Norwalk, Calif.)



部支チービゲンロ
段初 士劍

保崎川

一九二〇年、川崎三之助の次男としてロングビーチに生る。目下ハイスクールに在學。勉學の傍、劍道に志し、一九三三年支部設立と同時に入門、爾來熱心に修業し大いに進境を示して一九三七年十月二十五日初段を允許さる。學業の傍ら農事を手傳ひて好評あり。(Rt. 1. Box 350, Long Beach, Calif.)



部支チービゲンロ
段初 士劍

繁町棚

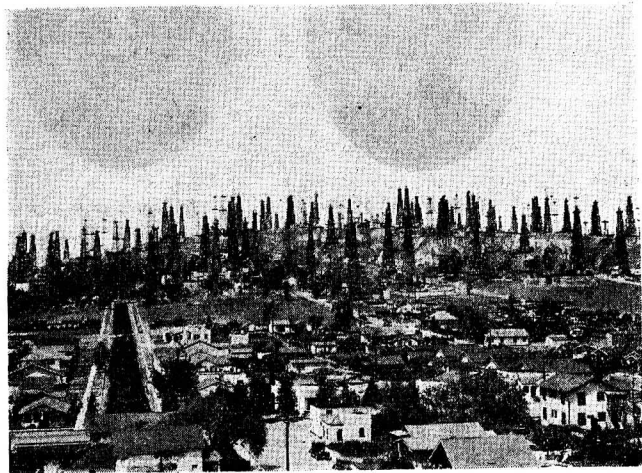
一九二二年六月十三日、棚町虎造の長男としてロングビーチ市に生る。幼にして支部入門、實姉春子に劣らず修業熱心にして一九三八年六月初段允許を受け、猶引き續いて猛烈な稽古を勵みつゝ、後進者を導けり。

(P. O. Box 63, Seal Beach, Calif.)

第十一章 ドミングスヒール支部

支部設立の動機

ドミン
グス
ヒール
は
南加州
ガ
ー
デナ
平原
の
南端
に
位
ひ
し、
隣市
の
サン
ビド
ロ
ロン
グ
ビ
ー
チ
兩
支
部
と
三
角
形
的
に
對
立
せ
る
油
田
地
に
し
て
同
胞
農
家
約
*



林立せらるるミドグスヒールの油槽

*五十を數へ極めて平和な農村である。此地に同胞が最初足跡を印せるは何年頃であるや史實明らかでないが、一九〇六年の桑港大震災後南漸せる多數同胞が各地に發展の足歩を進めた頃より、同地の開發が始まつたものと觀られる。

一九三一年の初春、現サンビドロ曹洞宗光泰寺住職にして、曹給學團長たりし池田文淵が、當時サンビドロ劍道道場師範助手として若き劍士の指導的教練に盡力せる處より同地農業家中の有力者たる熊本縣人桑原音吉、桑原圓吉の兄弟と謀り、同年二月十一日紀元節の運動會當日先づ最初試験的に幼少年八名を集めて、北米武徳會流の劍道基本動作より修養講話を主として教授せる處、意外の反響があり忽ち、拾數名の劍士増加、之れに氣を得た池田は、熱心に善く兒童を教導せるも、僧職學團の兩務繁多の爲め、創始

一ヶ年にして中絶の不止なきに至つたので、深く之れを遺憾とし、前記桑原兄弟と共に、當時サンビドロ支部師範たりし

藤井登六を訪ね、此間の事情を述べて藤井の出て張教授を請ふに至つた。
熱意溢るゝ三名の請を快く容れた藤井※



ミドグスヒール支部支父兄

三名を出し、毎年の全米大會に極めて優秀なる成績を現して居る。

一九三八年度の新幹部は

- | | | | |
|------|------|--------|------|
| 顧問 | 桑原音吉 | 同 | 飯沼藤平 |
| 支部長 | 宮川誠 | 相談役兼會計 | 桑原圓吉 |
| 副支部長 | 吉田一二 | 同 | 池本善八 |
- 第十一章 ドミングスヒール支部
- 七三九

れて盡瘁する所深し。妻ヨツとの間に長男午郎（現東京石川島造船所勤務）眞之、一雄（在日本中學在學）博之の四男あり。

ドミンクスヒール支部副會長

飯 沼 藤 平

R, 7, D, 2 Box 49—B, Gardena, Cal



との仲に公明、三男、富士の三子あり。

ドミンクスヒール支部相談役兼會計

桑 原 圓 吉

P, O, Box 277, Gardena, Cal,



熊本縣天草郡手野村内野に、明治二十二年生れ、同四十年十八歳の若冠を以て、渡米し桑港に上陸、直ちに南加州モネタに於て農業に従事し、大正六年（一九一七年）現住地に轉

じて野菜専門の農園四十英町を經營し今日に至る。資性質素重厚にして、常に在留民の指導者となり、前劍道支部長たること數回の外、學園、農業組合、熊本縣人會等の要職に就き、殊に劍道支部には實兄晉吉と共にその設立當初より盡瘁し曩に同地の邦語學園長にして開教使たりし、池田文淵と意氣相投合して、二世青少年男女に劍道の教授を開始し其の間幾多の辛酸を嘗めたるも動する事なく、心身俱に打ち込んで其の實績を擧げるに努力した爲め、地方在留民も漸く其の熱意に動かされて共鳴するに至り、爾來數年間協力一致して支部の今日あらしめたる功勞者なり。妻早苗との間に好子、義行、早子、博行、信行、富士子の三男三女を有し、兄晉吉と同様物的にも家庭的にも誠に恵まれたる子福者である。

ドミンクスヒール支部監査

志 賀 浦 幸 治 郎

Rt 2 Box 861—A Compton, Calif.



明治十二年、福島縣双葉郡幾世橋に生る。日露戰役當時たる明治三十八年二月渡米し桑港に上陸。加州各地の農園に就働すること拾年後の大正四年（一九一五年）一時歸國し、同年再渡米三年後の一九一九年現住地に轉じ、花園業に従事し現在十四英町を獨力經營す。福岡海外協會評議員、ドミンクスヒール農會理事の公職に就く外、劍道支部監査にも選舉されて會の發展に盡し、妻イチとの仲に一の一粒種を儲け掌中の珠として愛撫せり。



ドミングスヒール支部監査

管野末

Rt 2, Box 865—A, Compton, Calif.

福島縣安達郡木幡村に明治十一年孤聲を擧げ、幼時より海外發展の志望を有し、遂に同三十二年一月(一八九九年)布哇に渡航、滿五ケ年間布哇の製糖會社に就働し、同三十七年一月(一九〇四年)大陸に轉航桑港に上陸、加州各地を轉住すること數年、一九二八年現住地に轉じて花園十五英町を經營今日に及ぶ。ドミングスヒール學園理事、同農業組合理事等の公職にあり、妻トラノとの仲に長男利雄(在日本勉學)讓治、富雄(早稻田大學在學)、武夫、清、清次の六男を有する子福者にて、何れも劍道に精進せり。

ドミングスヒール支部監査

管佐原辰之助

Domingushill, Calif.



太平洋の貿易風和やかな千葉縣に孤々の聲を擧げ、渡米以來南加州ドミングスヒールに居を構へて農業に従事し、爾來今日まで夙に同胞社會の公共團體に盡瘁する所深く、殊に當地に北米武德會支部が設立されるや、二世青年男女の將來と武道精神の涵養なる要點に深く留意する所あり、自ら率先して之れが發展に盡せり。資性極めて濃厚且つ健實にて財的基礎も彌々固く日米人間に信望厚し。

ドミングスヒール支部幹事

鈴木龜藏

Rt 1 Box 46, Gardena, Cal.



明治三十一年新潟縣北蒲原郡中條町に生る。一九一五年渡米直ちに南加州に來り現住地に於て農園を經營今日に至る。資性着實にして劍道に深き理解と趣味を有し、幼児淳を先づ入門せしめて劍道を練磨させ、自ら同支部の繁職幹事に就任し、會の發展の爲め大に盡瘁する所あり、此の外、ドミングスヒール日本語學園理事を兼ねて勤めり。妻ヨシとの間に長男淳、二男隆、長女和子、二女雪子の二男二女あり家庭頗る圓滿なり。

ドミングスヒール支部會計

池本善八

Rt 2 Box 849 Compton, Calif.

明治十七年、熊本縣天草郡手野村に生る。同三十九年海外雄飛の志を抱いて布哇に渡り、同年直ちに大陸に轉航し、南加に來りて農業に従事せり。一九三二年現住地に同郷人桑原兄弟あるを縁に來住し農園を經營今日に至る。劍道に深き趣味を持ち妻リサとの仲に儲けし猛、茂の二男を入門せしめ、専ら武道の練磨と精神の向上に精進せしむ。今年は同支部會計に選舉され、又同地學園理事をも兼職せり。



士劍部支

和正原桑 段二

一九一九年八月桑原音吉長男としてモネタ町に生る。カンプトン小學校よりハイスクールに進み、現在カンプトンのジュニアカレッジに在學。一九三一年二月支部創立と同時に入門、六ヶ年の修業を積んで一九三七年十月二十五日二段を免許さる。

Rt. 2 Box 249, Compton, Cal.



士劍部支

子好原桑 段二

一九二〇年四月二十三日桑原圓吉の長女としてドミンクスヒールに生る。現在ハイスクールに在學一九三四年、支部入門、爾來男子にも劣らぬ熱心さで修練一九三七年十月二十五日織手良く有段の域に進み僅か十七歳を以て二段を免許さる一九三七年七月四日全米大會に於て三段岡本藤枝を破りしは今尙人の記憶に新たなところなり



士劍部支

行義原桑 段初

二段桑原正和、好子の弟で一九二一年十月十五日生れである。現在ハイスクールに在學支部設立と同時に入門、爾來七年間皆勤の精勵者にして、一九三七年十月二十五日初段を免許さる。同年シャツル大會に少年組副將として出場し九戦九勝の赫々たる劍功を立つ。



士劍部支

之眞田吉 段初

福島縣出身吉田二の二男として一九二二年五月十九日、蜜柑花香る加州シエラマデラに生る。カンプトングラマよりハイスクールに進み今日猶在學中なり。一九三七年十月二十五日初段に免許され、續いて熱心に劍道に精進せり。

Rt. 7, D, 2, Box 846, Compton, Cal



士劍部支

夫武野管 段初

一九一九年三月八日、管野末の四男として加州ハリウッド市に生る。一九二六年訪日、福島縣群山の安積中學校入學す。卒業後一九三六年歸米、現在カンプトンハイスクールに在學す。中學校時代日本に於て初段を免許され、歸米後ドミンクスヒール支部藤井鍊士との認許を得て斯道の研修に努む。

Rt. 2 Box 865-A, Compton, Cal.

『劍道大鑑』の發行に當りて

北加沿岸聯盟會々長 ワッソンビル支部顧問 壽村逸發



總ゆる辛苦艱難を嘗めて、遂に此の殷盛興隆を見るに至つて居る。

中村教士に對する、或る一部の論者等は、兎角の批評を試みて、同教士の經歷、人格、才幹に、可なり痛烈なる譏諷中傷を爲す者があるが、それは皆な、自己を中心論する感情論であつて、我等は絶體に耳を傾けないのである。我等北米武徳會一萬數千の劍士及び父兄等は、人間の誰もが共有する、短所弱點のみを摘發せずして、同教士の更新的なる、二世指導教育の、發洩たる精神力を讚美し、其の生々しき教化事業の現實に立脚して、同教士を佐け、彼の奮闘なる遺業を繼承し、更らに之れを、發展伸張せしむべく、現在猶 多大な努力を拂つて居る。

人間には皆な各自その性格に、長短の二様を享有する者にして、即ち『人』と言ふ字の示せるが如く、一は長く一は短きものこそ『人』である。古來『英雄に大缺點あり』と謂はるる通り、衆人監視の意表に立つて、大事業を達成せんとす

る、偉大なる人物は、其の性格的長所が偉大なるだけに、短所もまた、大きな線を描き出されるに至るのである。中村教士を後援支持する我等は決して、同教士を偉人稱ばはりするものではないが、過去十ヶ年間、朝に冷笑の聲を浴び、夕に非難の罵倒を受けながら、善く隱忍自重して、此の教化實績を擧げたる、其の涙ぐましき奮闘に對して 滿腔の敬意と感謝の念を拂ふものである。

今日、北米劍道大鑑の發行に當つて、前述の感を深くすると同時に、過去十ヶ年間、同教士を極力後援支持し、幾多の辛酸を共に嘗め來れる、一般劍士、父兄諸氏及び、北米武徳會の教化事業に、深き同情と理解を持つて、本會の事業完成に多大なる援助を賜つた桑 港 日米新聞社 サンフランシスコ日米新聞社 新世界朝日社に對して、特に深甚なる感謝の意を表するものである。惟ふに我が北米武徳會の事業は、まだ完璧を期したるものに非ずして、或る意味に於ては、是より愈々本格的舞臺に乗り出したとも言へる、極めて重大時期に直面して居ることなれば、各後援者もまた、一層協力一致の上、中村教士の遺業たる本事業を、將來益々伸張發展さすべく努力せられん事を熱望して止まないものである。畏兄靱井一劍氏が、献身的努力を以て、北米劍道大鑑を編纂發行されるに當り、同氏の勞を深謝し、併せて一般父兄、劍士、後援者諸氏に對して、感謝と希望の一端を述べる次第である。